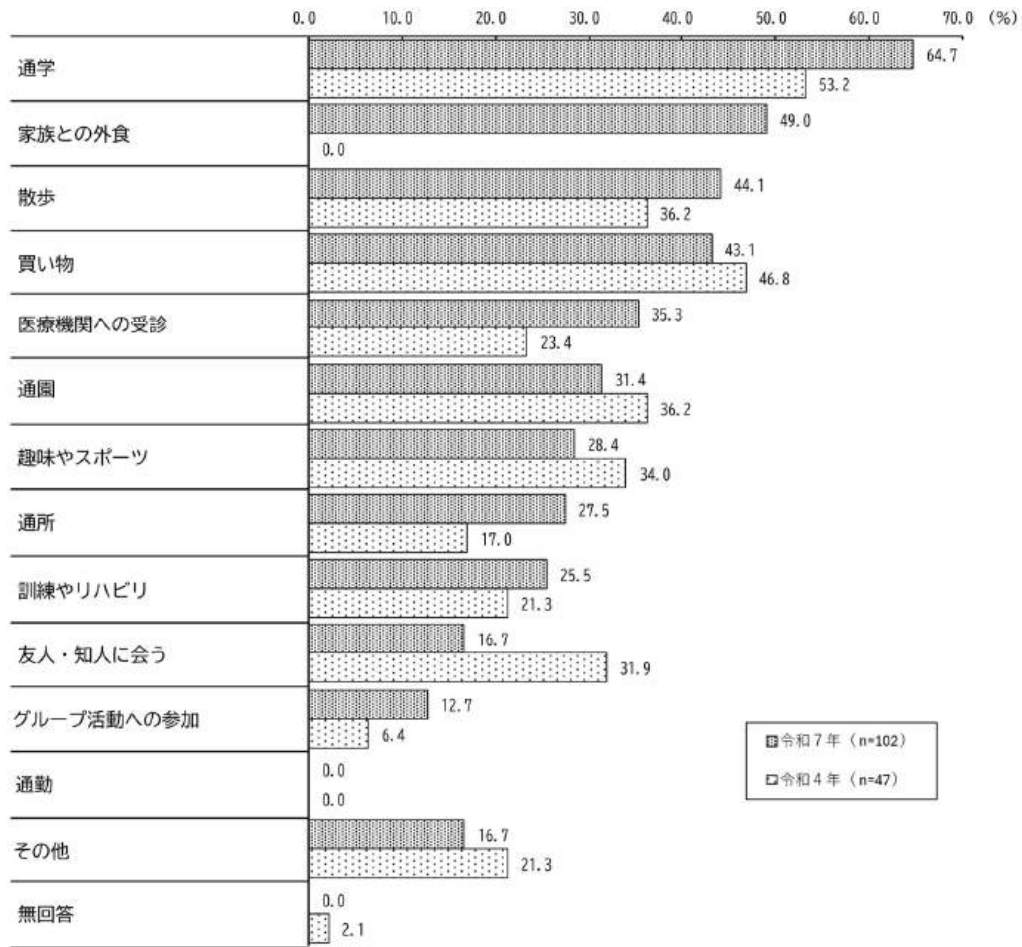


外出の主な目的（経年比較）＜障害児＞

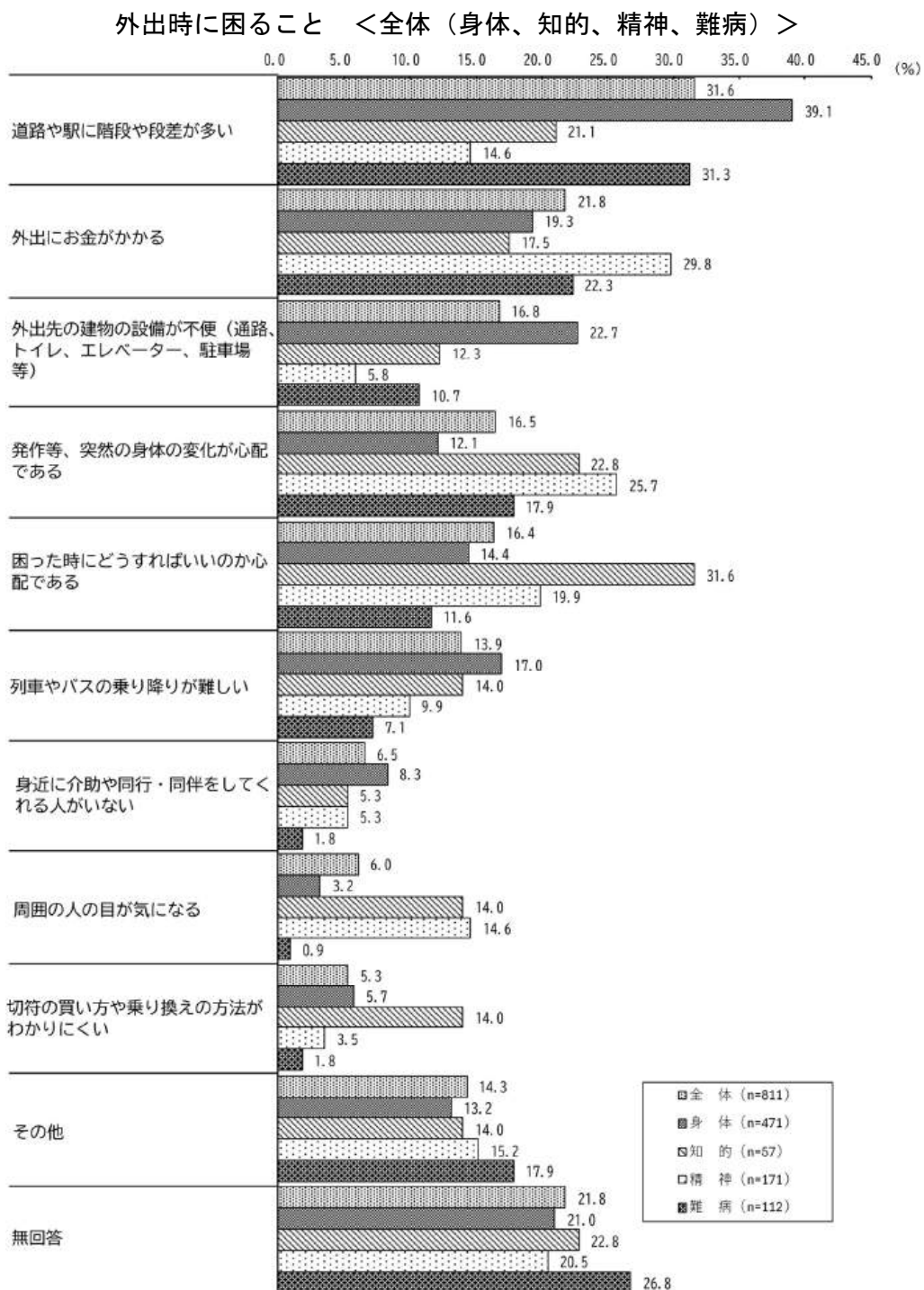


(5) 外出時に困ること

問 あなたが外出したときに、困ることは何ですか。(〇はいくつでも)

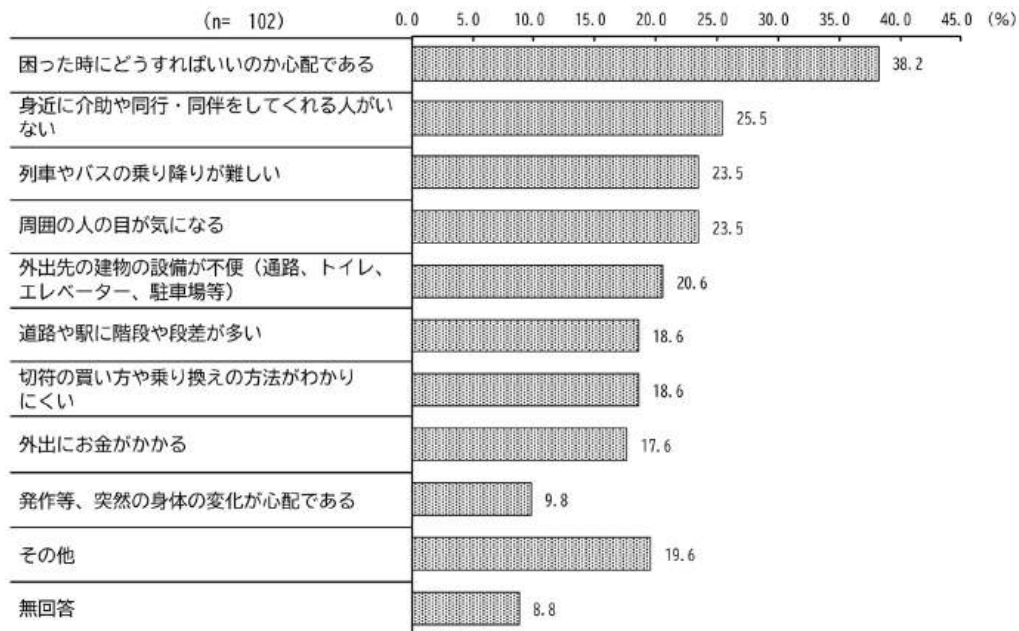
外出時に困ることについて、全体で見ると、「道路や駅に階段や段差が多い」が31.6%で最も高く、次いで「外出にお金がかかる」が21.8%、「外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーター、駐車場等）」が16.8%、「発作等、突然の身体の変化が心配である」が16.5%などとなっている。

調査票種別で見ると、身体と難病では「道路や駅に階段や段差が多い」、知的では「困った時にどうすればいいのか心配である」、精神では「外出にお金がかかる」の割合が最も高くなっている。



障害児の外出時に困ることをみると、「困った時にどうすればいいのか心配である」が38.2%で最も高く、「身近に介助や同行・同伴をしてくれる人がいない」が25.5%、次いで「列車やバスの乗り降りが難しい」、「周囲の人の目が気になる」がそれぞれ23.5%などとなっている。

外出時に困ること <障害児>



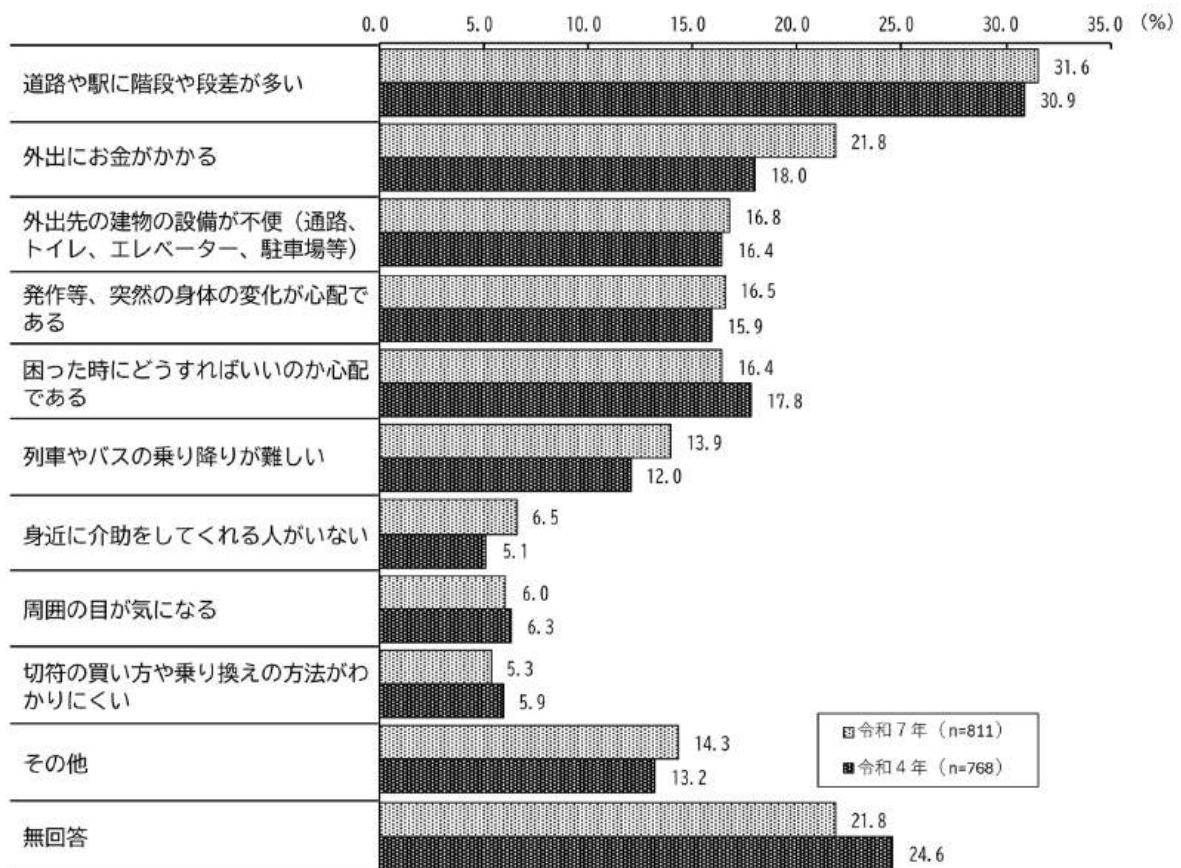
【経年比較】

令和4年調査と比較すると、「外出にお金がかかる」が3.8ポイント増加しているほかは、傾向に大きな差はみられない。

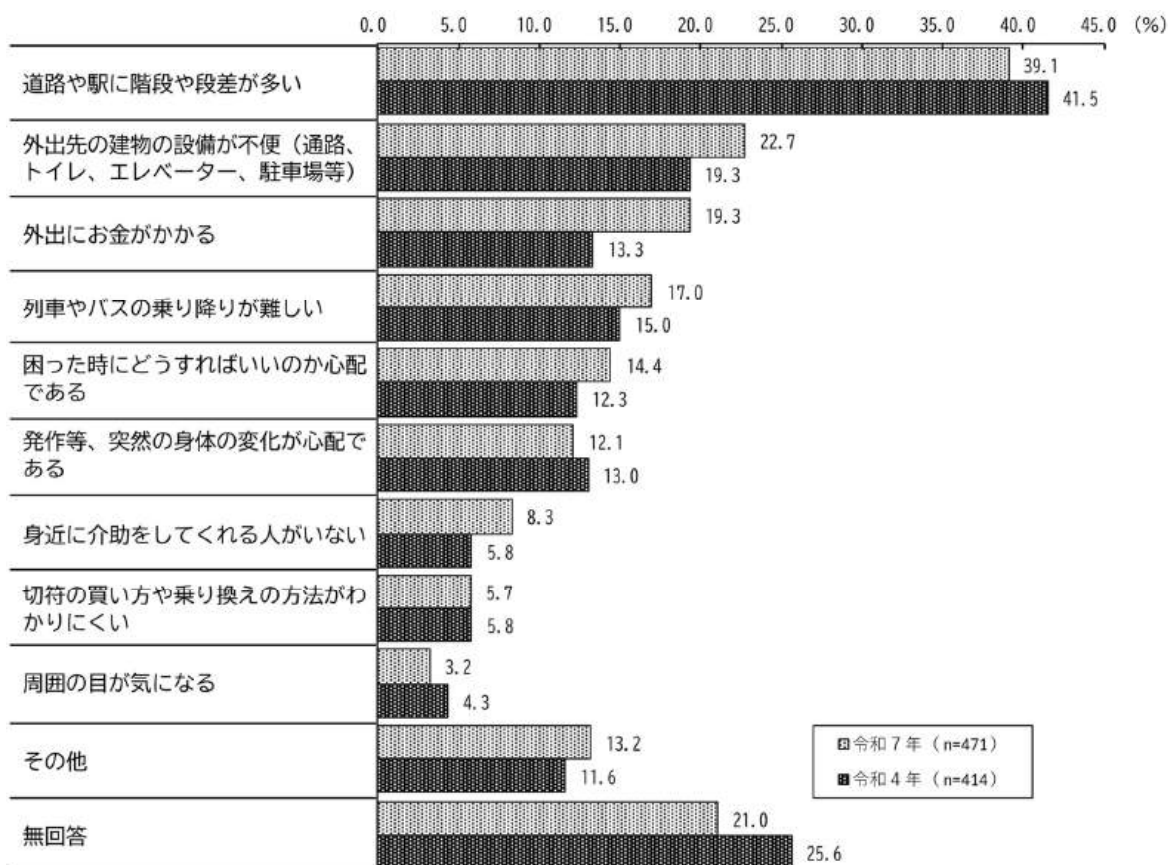
調査票種別でみると、知的で「発作等、突然の身体の変化が心配である」が12.0ポイント、「道路や駅に階段や段差が多い」が10.3ポイントそれぞれ増加しており、「困った時にどうすればいいのか心配である」が19.2ポイント減少している。

障害児ではすべての項目で増加傾向にあり、特に「身近に介助や同行・同伴をしてくれる人がいない」が17.0ポイント、「外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーター、駐車場等）」が12.1ポイントそれぞれ増加している。「身近に介助や同行・同伴をしてくれる人がいない」の割合が大きく増加していることから、同行支援などの支援を利用しやすい環境を整えることが重要である。

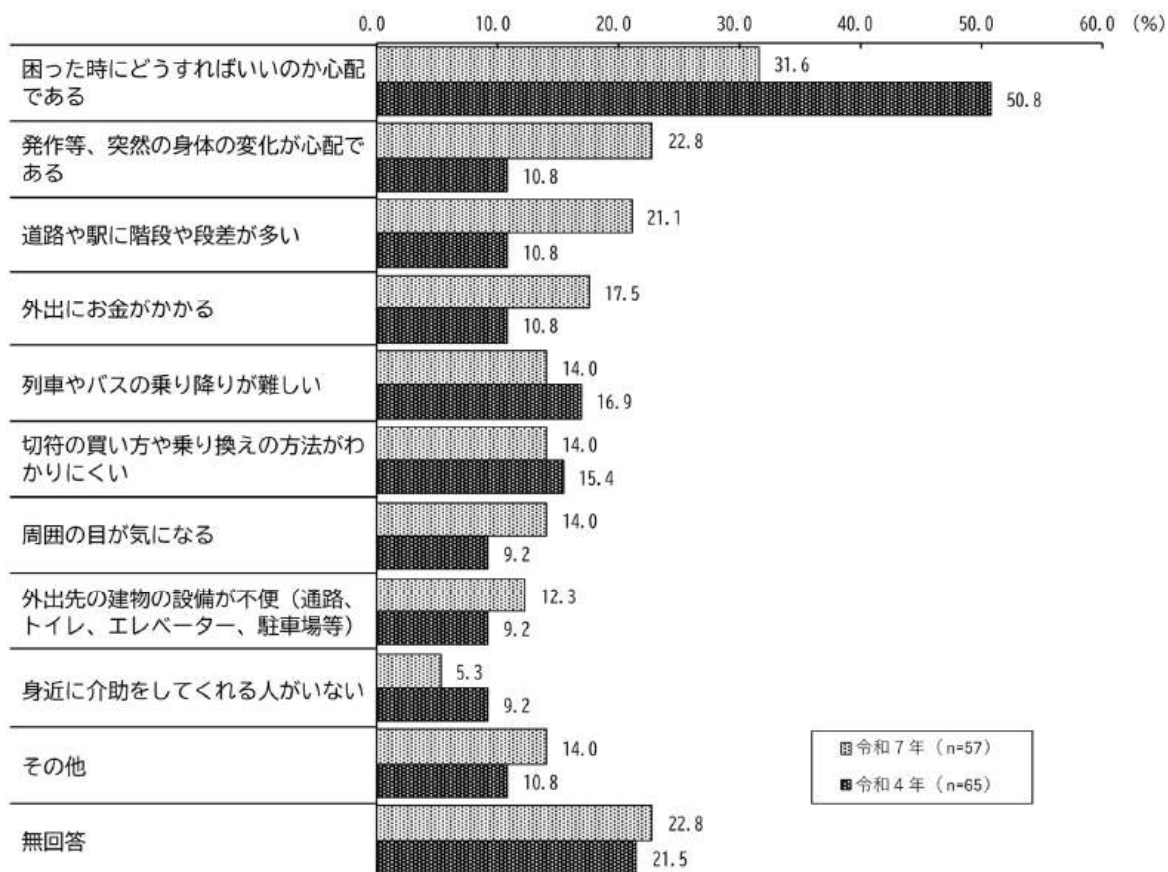
外出時に困ること（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



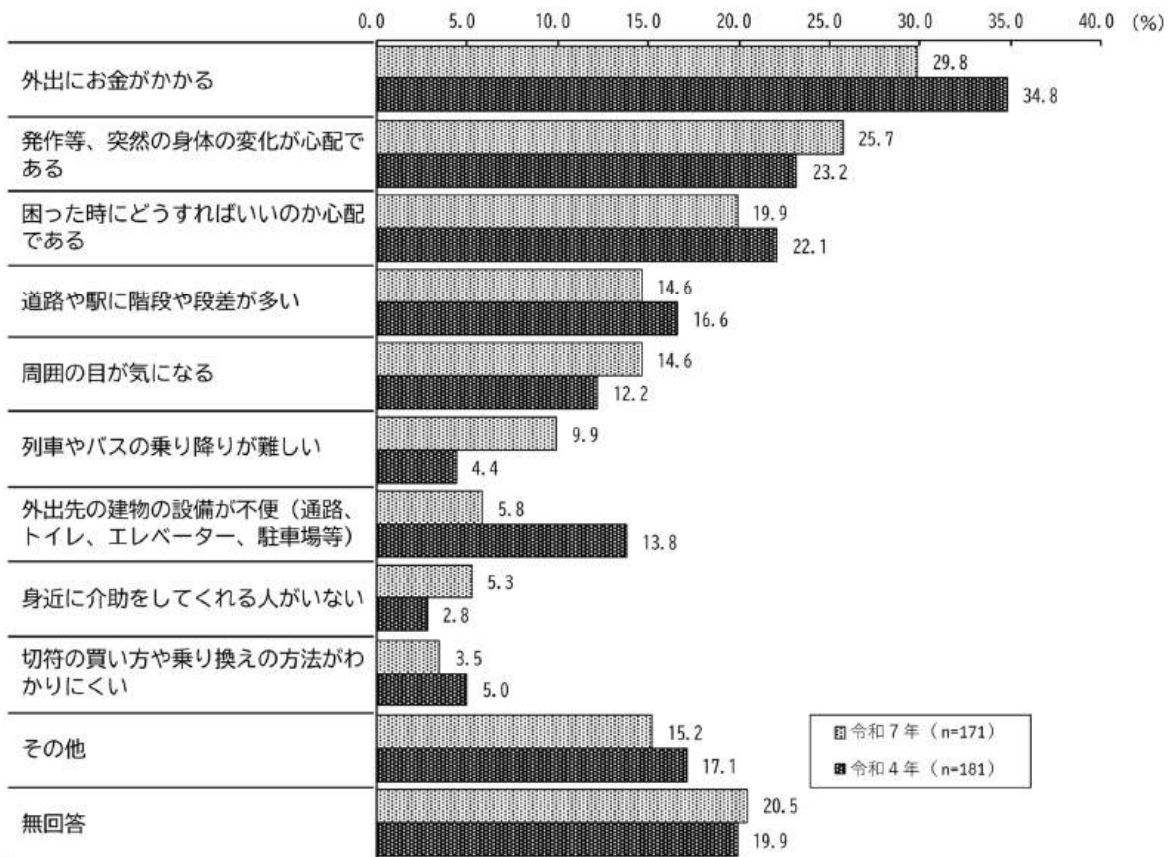
外出時に困ること（経年比較）＜身体＞



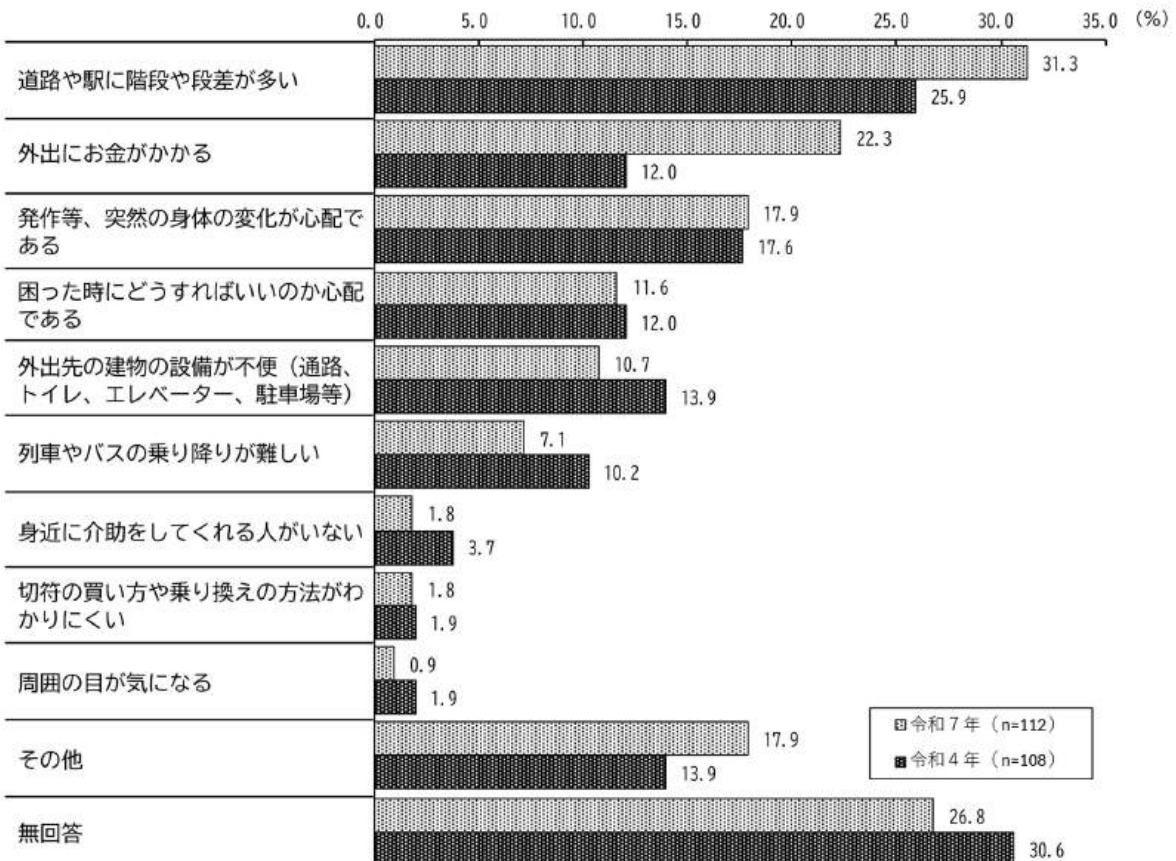
外出時に困ること（経年比較）＜知的＞



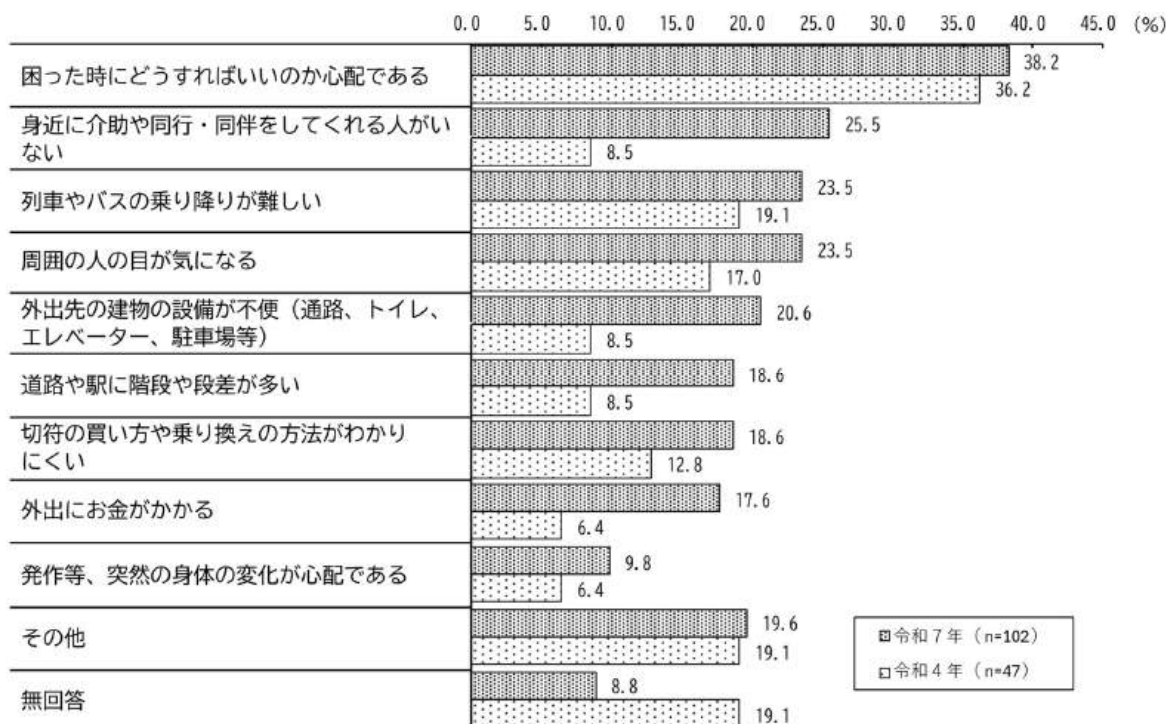
外出時に困ること（経年比較）＜精神＞



外出時に困ること（経年比較）＜難病＞



外出時に困ること（経年比較）＜障害児＞

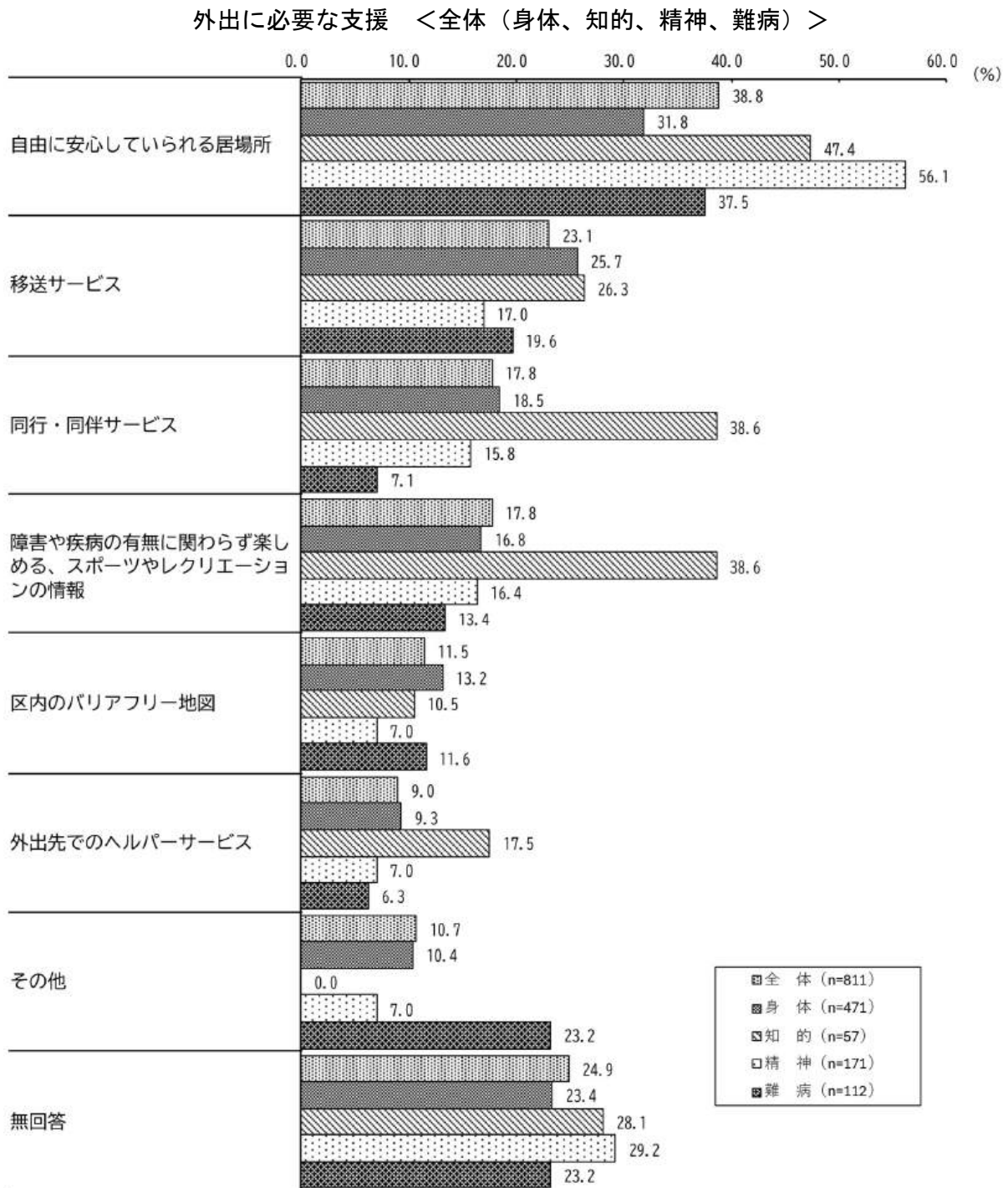


(6) 外出に必要な支援

問 どのようなサービスがあれば外出しやすくなると思いますか。(〇はいくつでも)

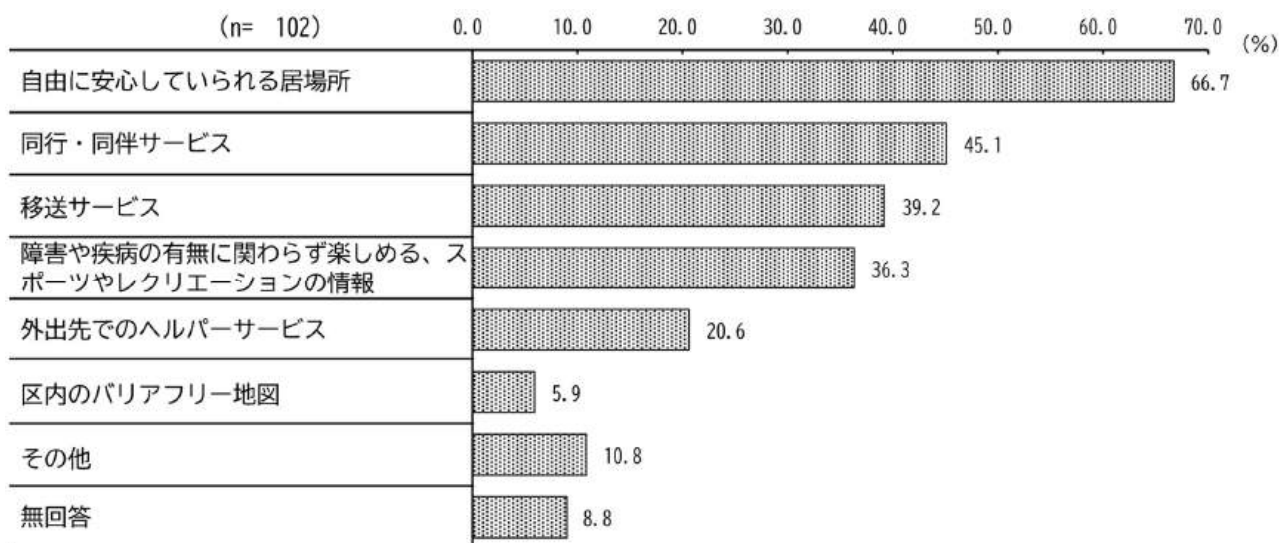
外出に必要な支援について、全体でみると、「自由に安心していられる居場所」が38.8%で最も高く、次いで「移送サービス」が23.1%、「同行・同伴サービス」が17.8%などとなっている。

調査票種別でみると、すべての種別で「自由に安心していられる居場所」の割合が最も高くなっている。



障害児の外出に必要な支援をみると、「自由に安心していられる居場所」が66.7%で最も高く、次いで「同行・同伴サービス」が45.1%、「移送サービス」が39.2%などとなっている。

外出に必要な支援 <障害児>



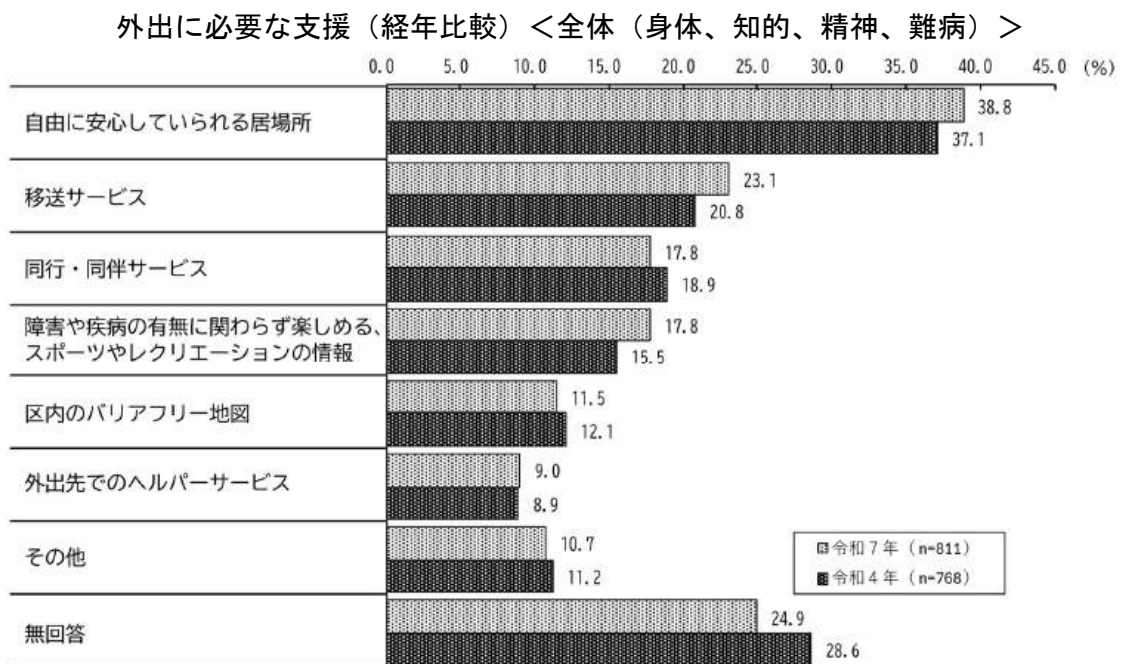
【経年比較】

令和4年調査と比較して、全体として傾向に大きな差はみられない。

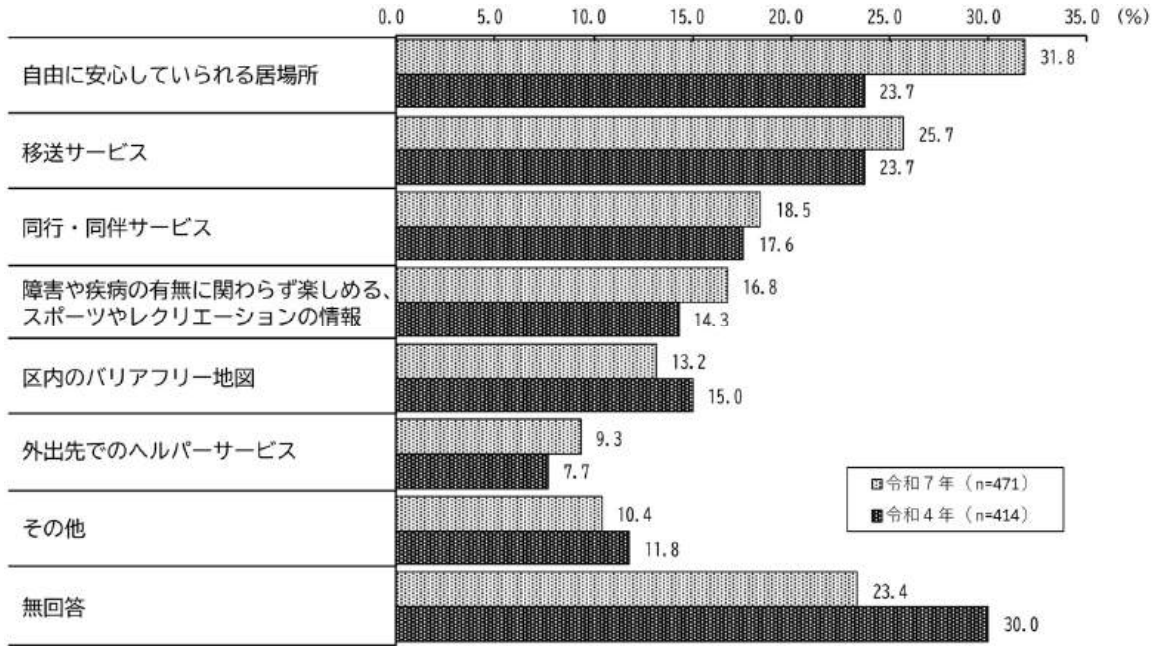
調査票種別でみると、知的以外の種別で「自由に安心していられる居場所」が増加傾向にある一方、知的では6.4ポイント減少している。

障害児では、「移送サービス」が24.3ポイント、「外出先でのヘルパーサービス」が18.5ポイントそれぞれ増加している。

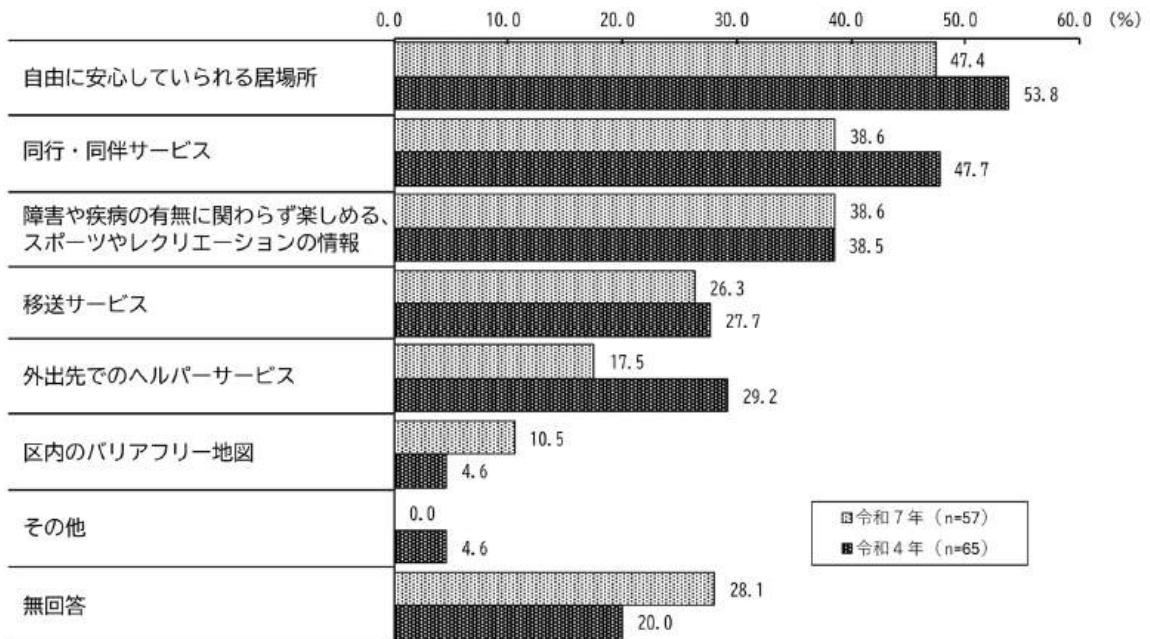
全体・障害児ともに「自由に安心していられる居場所」が令和4年に引き続き最も必要とされていることから、どのような居場所が自由で安心できると感じられるか、より詳細な調査が求められる。



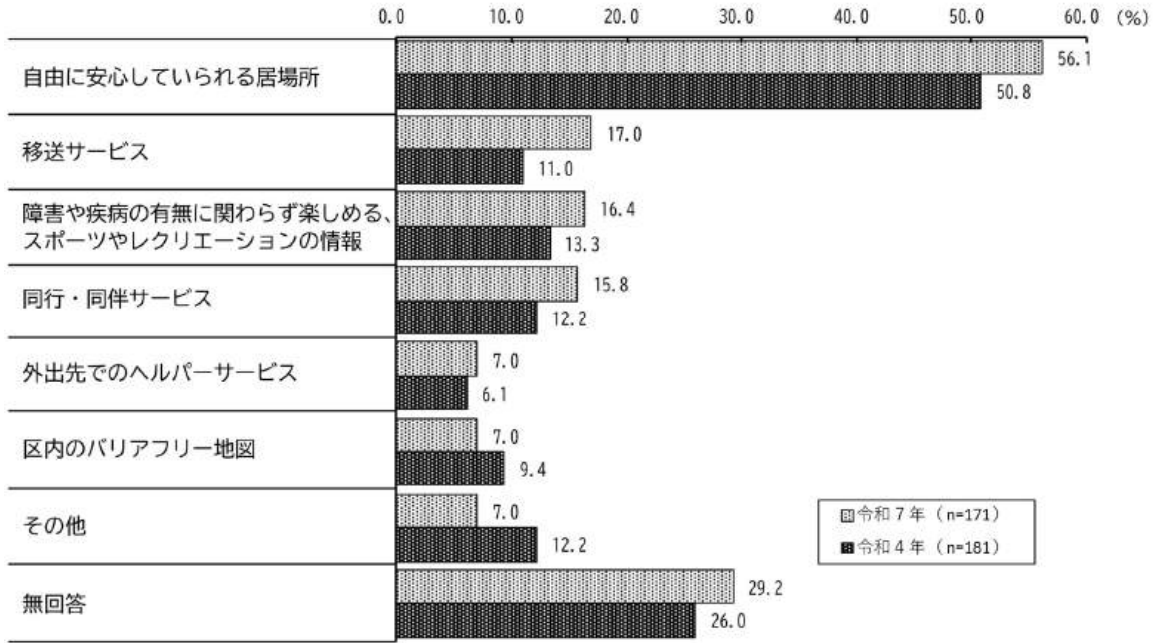
外出に必要な支援（経年比較）＜身体＞



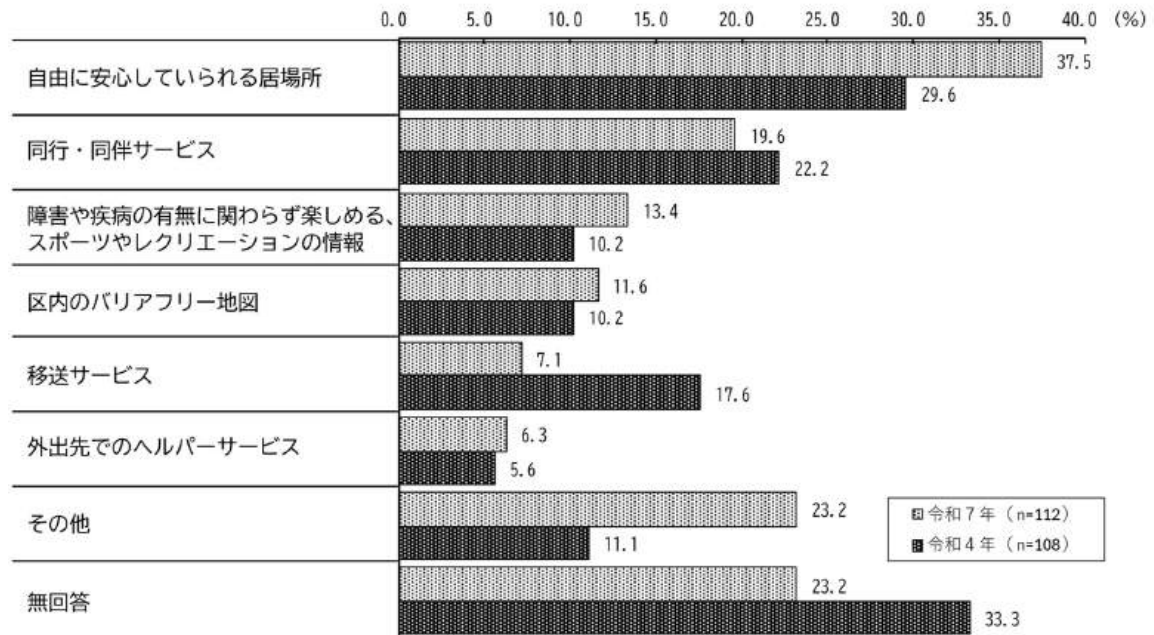
外出に必要な支援（経年比較）＜知的＞



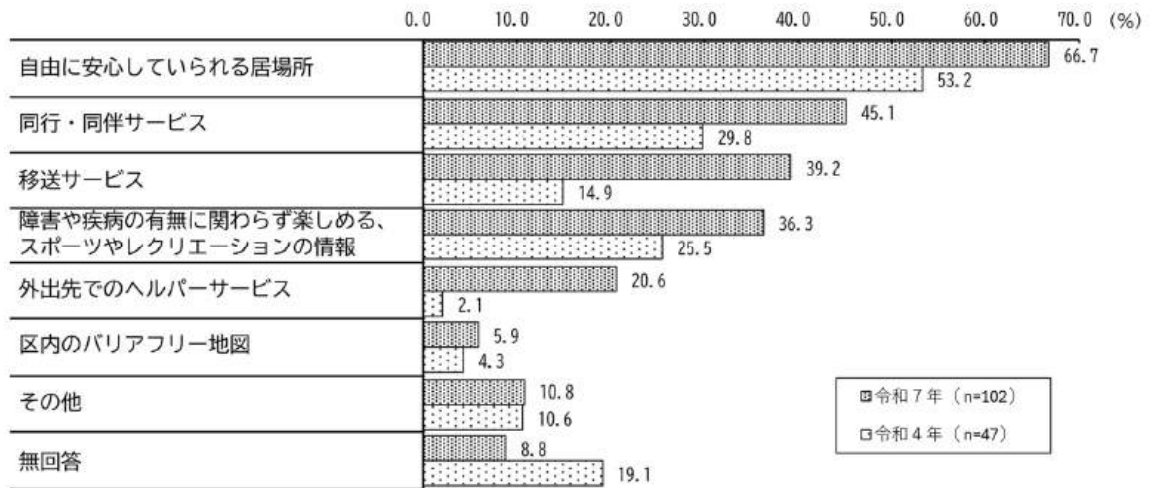
外出に必要な支援（経年比較）＜精神＞



外出に必要な支援（経年比較）＜難病＞



外出に必要な支援（経年比較）＜障害児＞

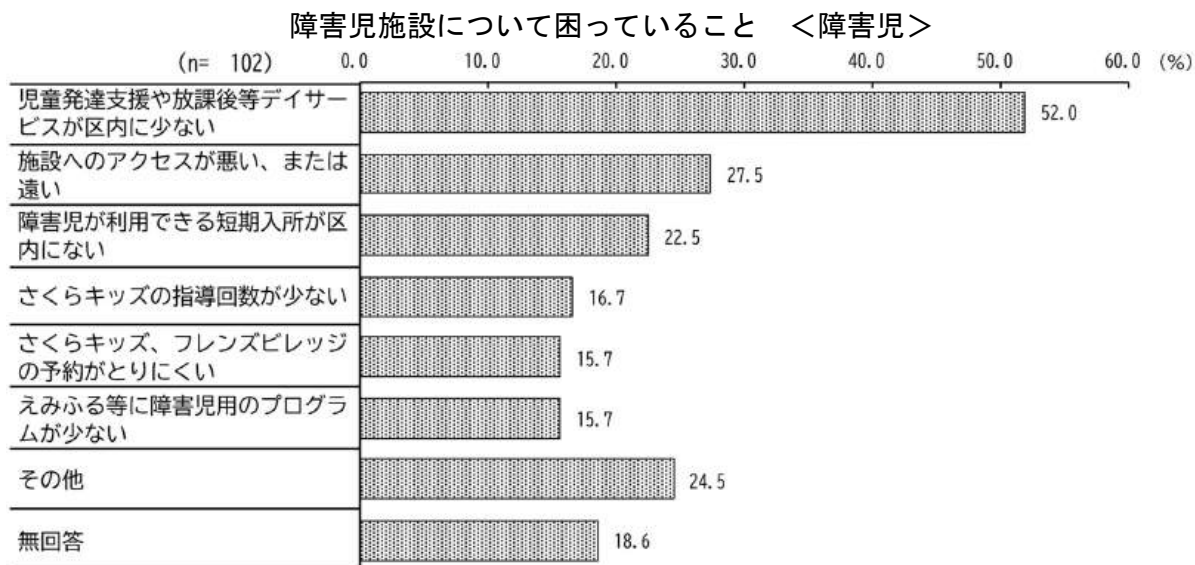


(7) 障害児施設について困っていること

<障害児調査の質問>

問 千代田区の障害児施設について困っていることはありますか。(〇はいくつでも)

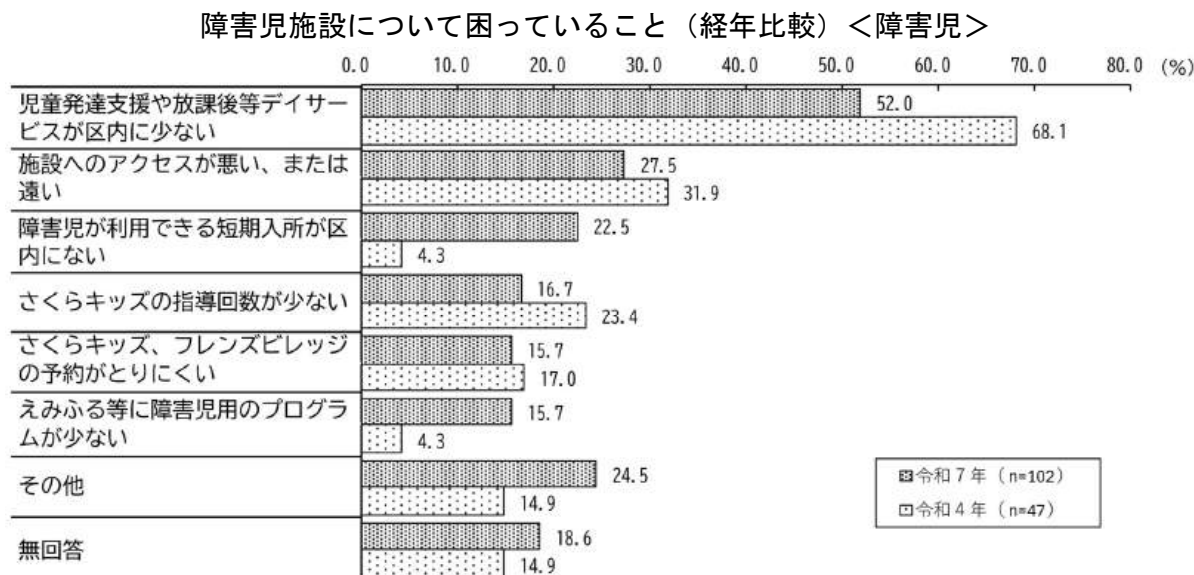
障害児施設について困っていることをみると、「児童発達支援や放課後等デイサービスが区内に少ない」が52.0%で最も高く、次いで「施設へのアクセスが悪い、または遠い」が27.5%、「障害児が利用できる短期入所が区内にない」が22.5%などとなっている。



【経年比較】

令和4年調査と比較すると、「障害児が利用できる短期入所が区内にない」が18.2ポイント、「えみふる等に障害児用のプログラムが少ない」が11.4ポイントそれぞれ増加しており、「児童発達支援や放課後等デイサービスが区内に少ない」が16.1ポイント減少している。

特に短期入所を希望する声が令和4年から増加していることから、今後の施設の拡充・体制の充実が必要とされる。



5 就園、就学について

(1) 子どもの就園、就学先

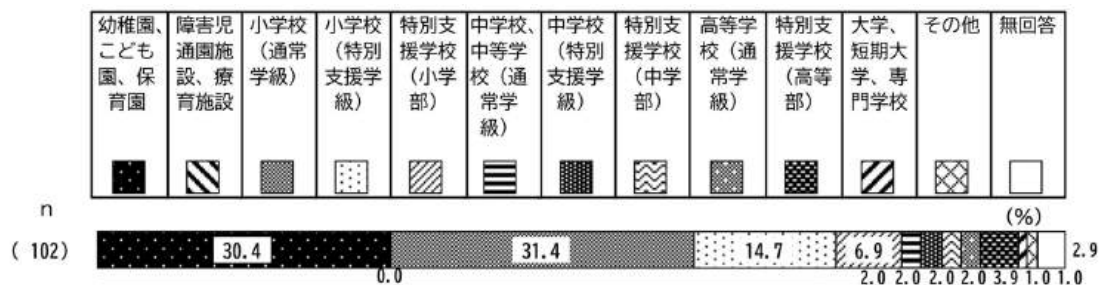
<障害児調査の質問>

問 就園、就学されている方にお聞きします。

(1) 現在のお子さんの就園、就学先はどこですか。(〇は1つだけ)

障害児の就園、就学先をみると、「小学校（通常学級）」が31.4%で最も高く、次いで「幼稚園、こども園、保育園」が30.4%、「小学校（特別支援学級）」が14.7%などとなっている。

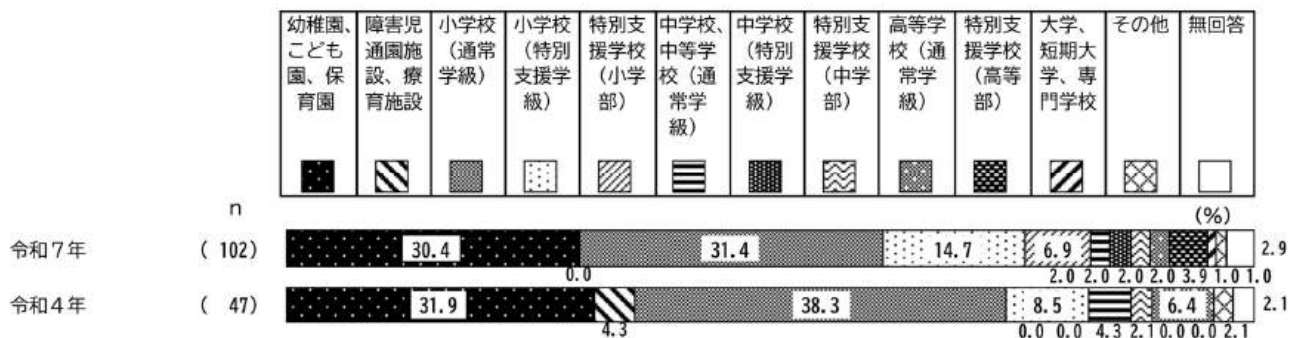
子どもの就園、就学先 <障害児>



【経年比較】

令和4年調査と比較すると、「特別支援学校（小学部）」が6.9ポイント、「小学校（特別支援学級）」が6.2ポイントそれぞれ増加し、「小学校（通常学級）」が6.9ポイント減少している。

子どもの就園、就学先（経年比較）<障害児>

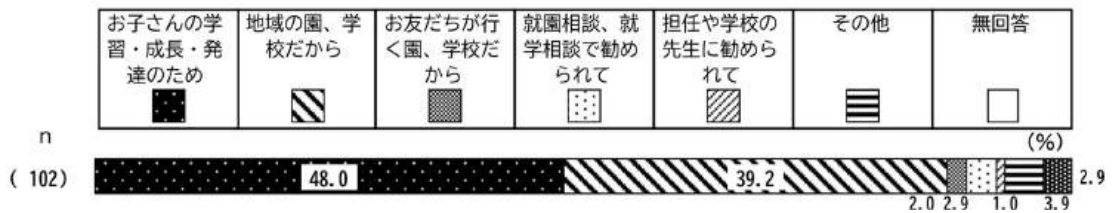


(2) 子どもの就園、就学先を選んだ理由

<障害児調査の質問>
問 就園、就学されている方にお聞きします。
(2) お子さんの就学先を選んだ理由は何ですか。(○は1つだけ)

障害児の就園、就学先を選んだ理由をみると、「お子さんの学習・成長・発達のため」が48.0%で最も高く、次いで「地域の園、学校だから」が39.2%となっている。

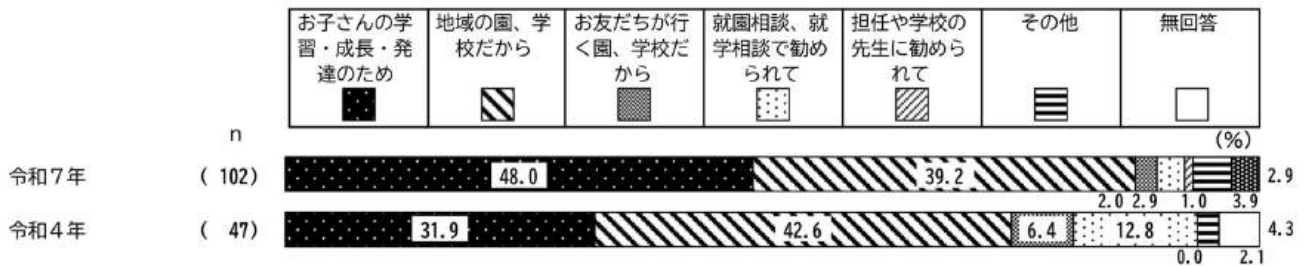
子どもの就園、就学先を選んだ理由 <障害児>



【経年比較】

令和4年調査と比較すると、「お子さんの学習・成長・発達のため」が16.1ポイント増加し、「就園相談・就学相談で勧められて」が9.9ポイント減少している。

子どもの就園、就学先を選んだ理由 (経年比較) <障害児>

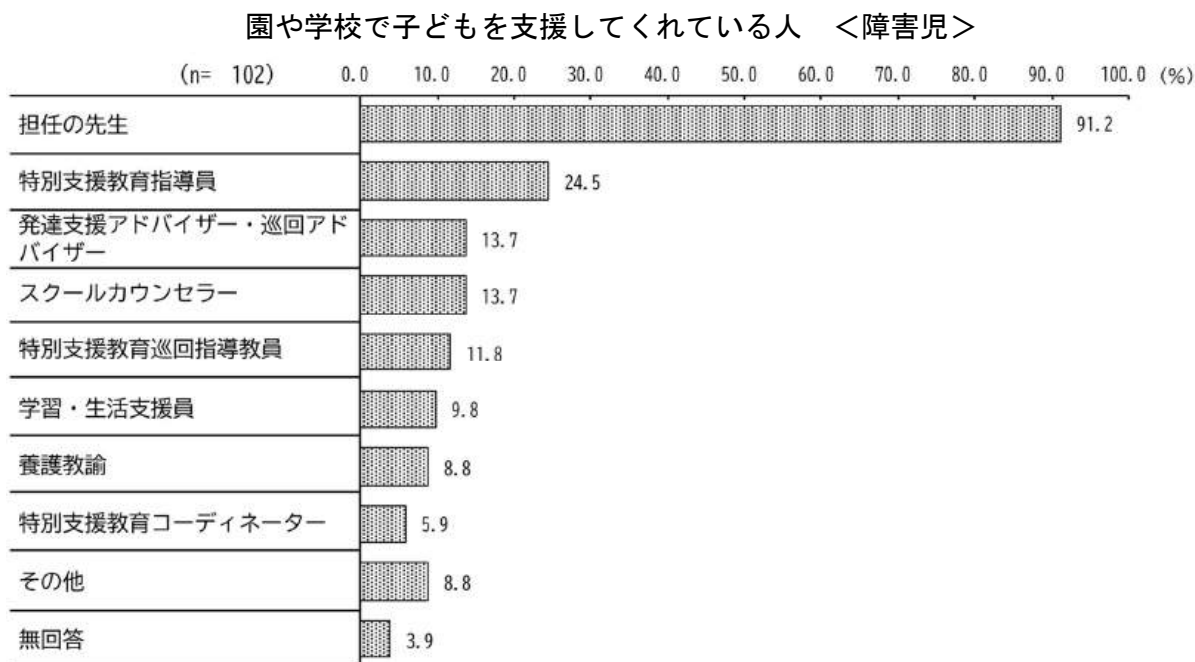


(3) 園や学校で子どもを支援してくれている人

<障害児調査の質問>

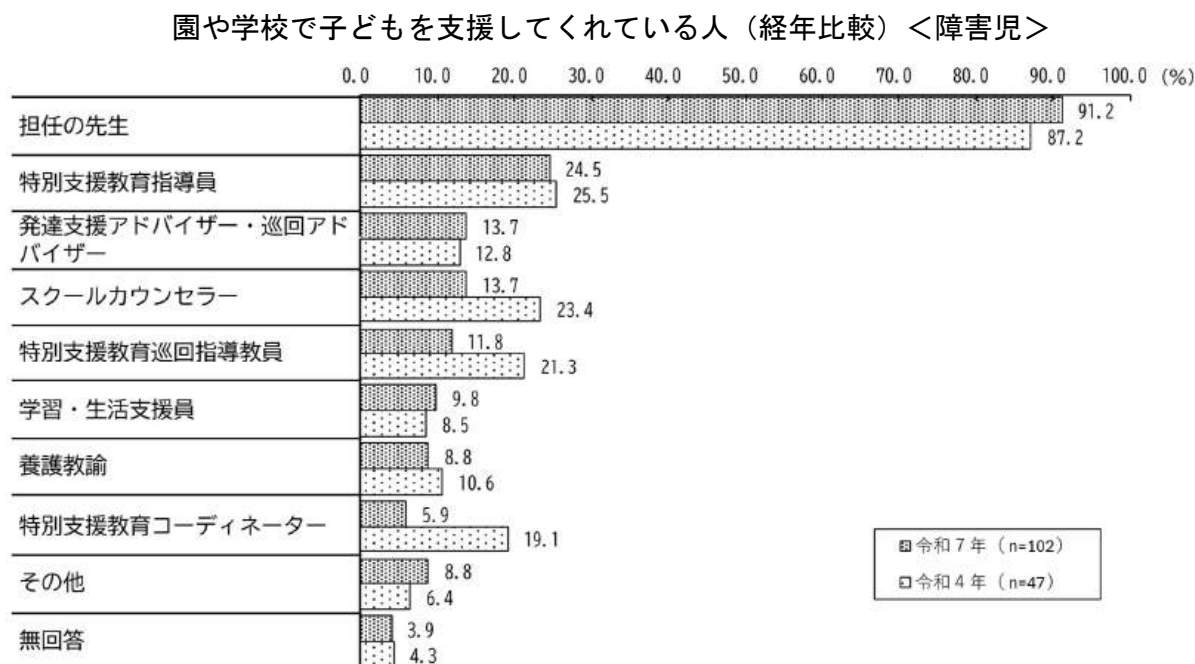
問 園や学校でお子さんを支援してくれている人は誰ですか。(〇はいくつでも)

障害児の園や学校で子どもを支援してくれている人を見ると、「担任の先生」が91.2%で最も高く、次いで「特別支援教育指導員」が24.5%、「発達支援アドバイザー・巡回アドバイザー」および「スクールカウンセラー」が13.7%などとなっている。



【経年比較】

令和4年調査と比較すると、「担任の先生」が4.0ポイント増加し、「特別支援教育コーディネーター」が13.2ポイント、「スクールカウンセラー」が9.7ポイントそれぞれ減少している。

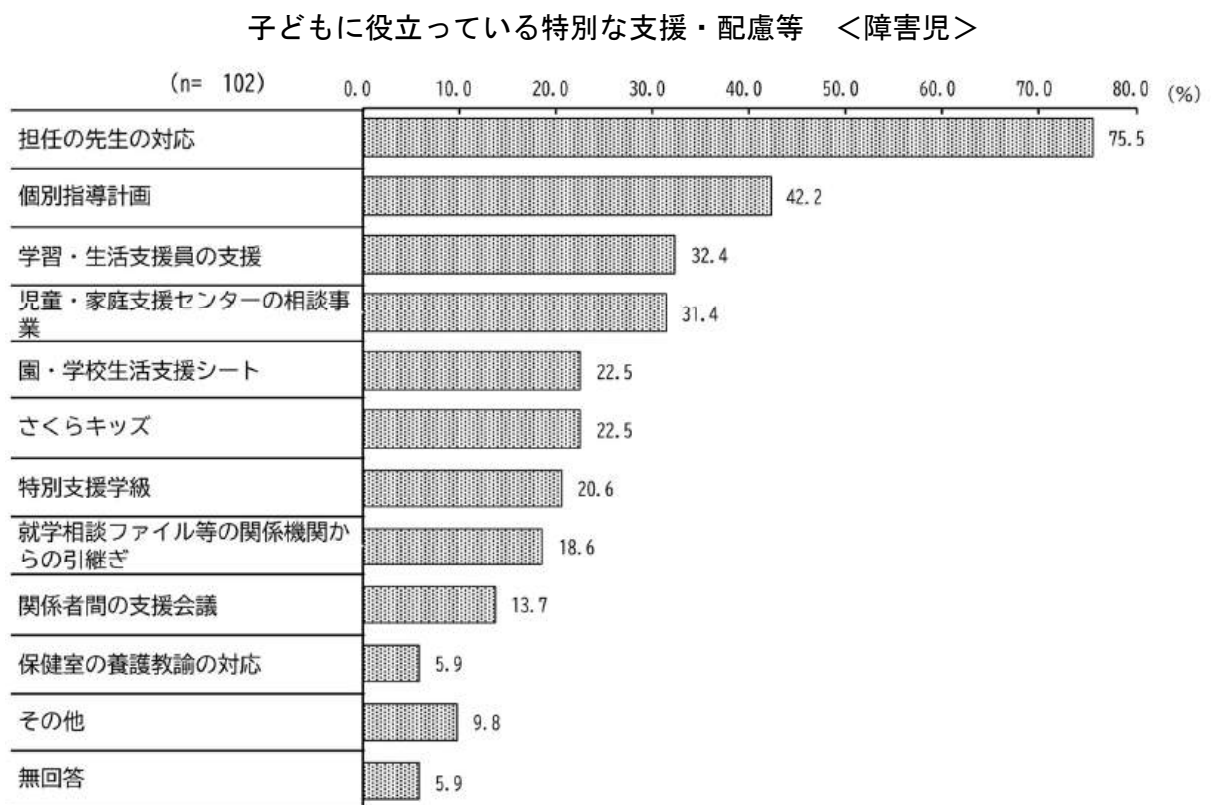


(4) 子どもに役立っている特別な支援・配慮等

<障害児調査の質問>

問 園や学校でお子さんに役立っている特別な支援・配慮等は何ですか。(〇はいくつでも)

障害児の役立っている特別な支援・配慮等をみると、「担任の先生の対応」が75.5%で最も高く、次いで「個別指導計画」が42.2%、「学習・生活支援員の支援」が32.4%などとなっている。

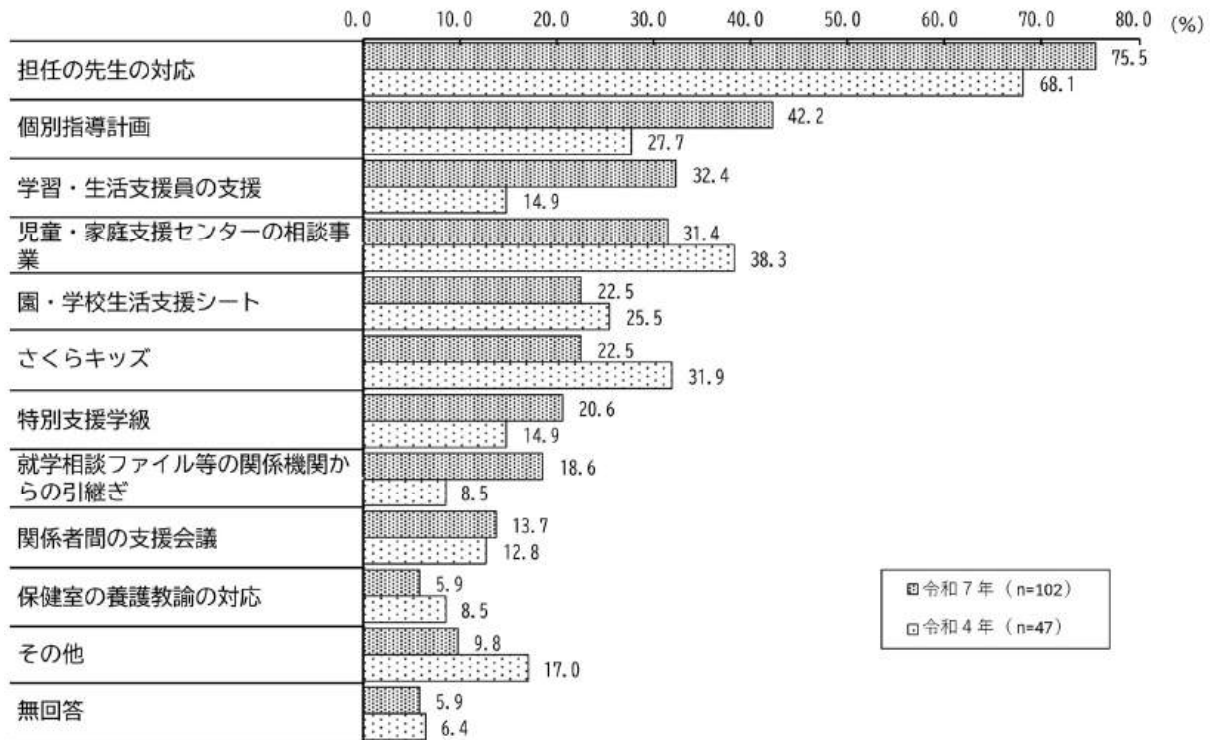


【経年比較】

令和4年調査と比較すると、「学習・生活支援員の支援」が17.5ポイント、「個別指導計画」が14.5ポイントそれぞれ増加しており、「さくらキッズ」が9.4ポイント減少している。

令和4年調査に引き続き、「担任の先生への対応」が最も有用であると認識されている一方、「学習・生活支援員の支援」に期待の声寄せられている。

子どもに役立っている特別な支援・配慮等（経年比較）＜障害児＞



6 就労について

(1) 就労の状況

<身体、知的、精神、難病調査の質問>

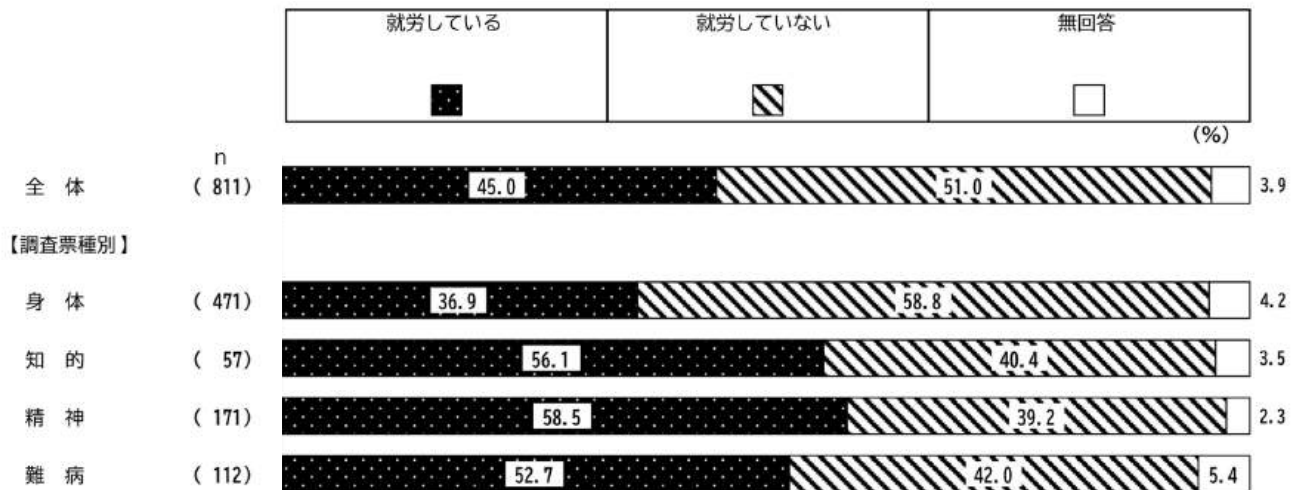
問 あなたの就労の状況についてお聞きします。

(1) あなたは就労していますか。(1つだけに○)

就労の状況について、全体で見ると、「就労している」が45.0%、「就労していない」は51.0%となっている。

調査票種別で見ると、精神では「就労している」が58.5%となっており、全体と比べて割合が高くなっている。

就労の状況 <全体（身体、知的、精神、難病）>



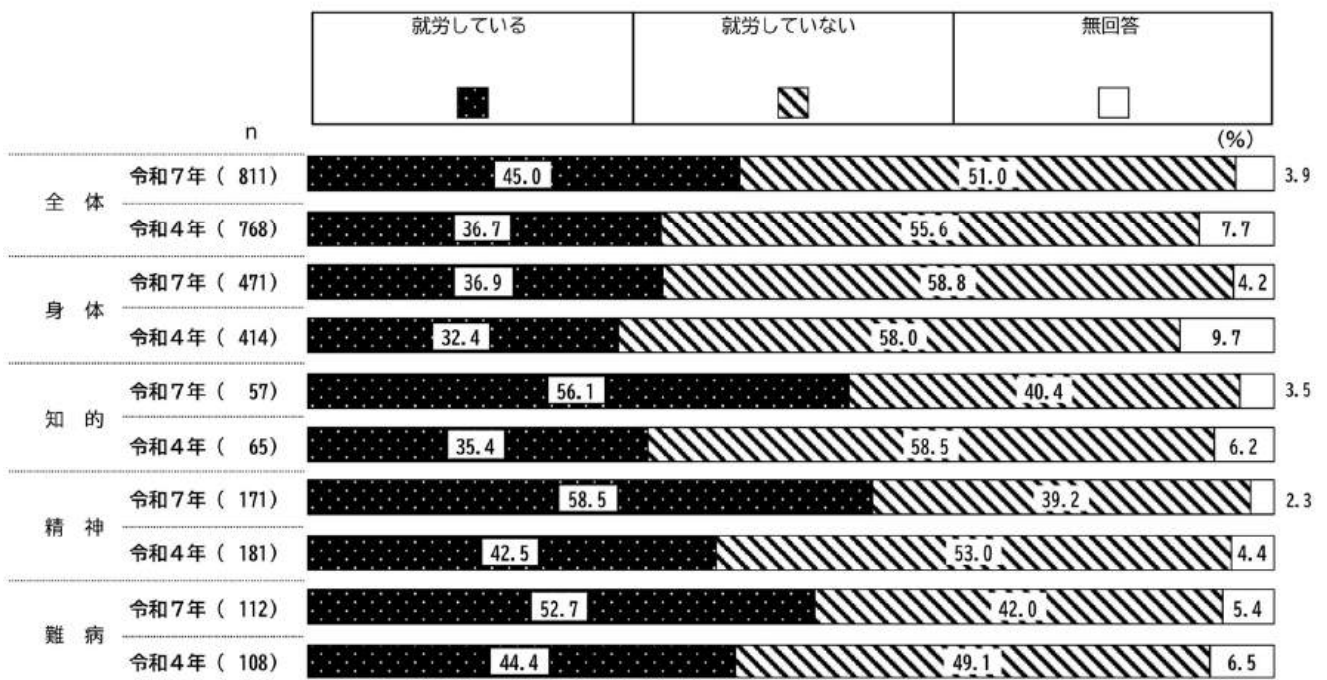
【経年比較】

令和4年調査と比較すると、全体では大きな傾向の違いはみられないが、「就労している」が8.3ポイント増加している。

調査票種別でみると、「就労していない」が知的で18.1ポイント、精神で13.8ポイントそれぞれ減少している。

全種別で「就労している」の割合が増加傾向にあることから、就労への意識の高まりがみられる。

就労の状況（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



(2) 就労している場合の働き方

<身体、知的、精神、難病調査の質問>

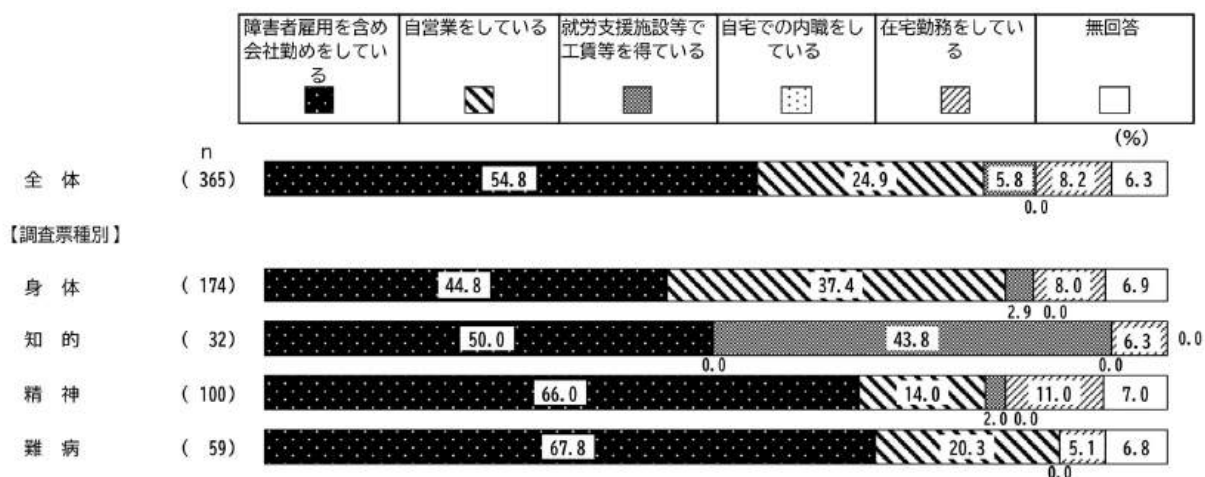
(就労の状況について、「就労している」と答えた方にお聞きします。)

(2) あなたの働き方についてお聞きかせください。(1つだけに○)

就労している場合の働き方について、全体で見ると、「障害者雇用を含め会社勤めをしている」が54.8%で最も高く、次いで「自営業をしている」が24.9%、「在宅勤務をしている」が8.2%などとなっている。

調査票種別で見ると、知的では「就労支援施設等で工賃等を得ている」が43.8%となっており、全体と比べて割合が高くなっている。

就労している場合の働き方 <全体（身体、知的、精神、難病）>

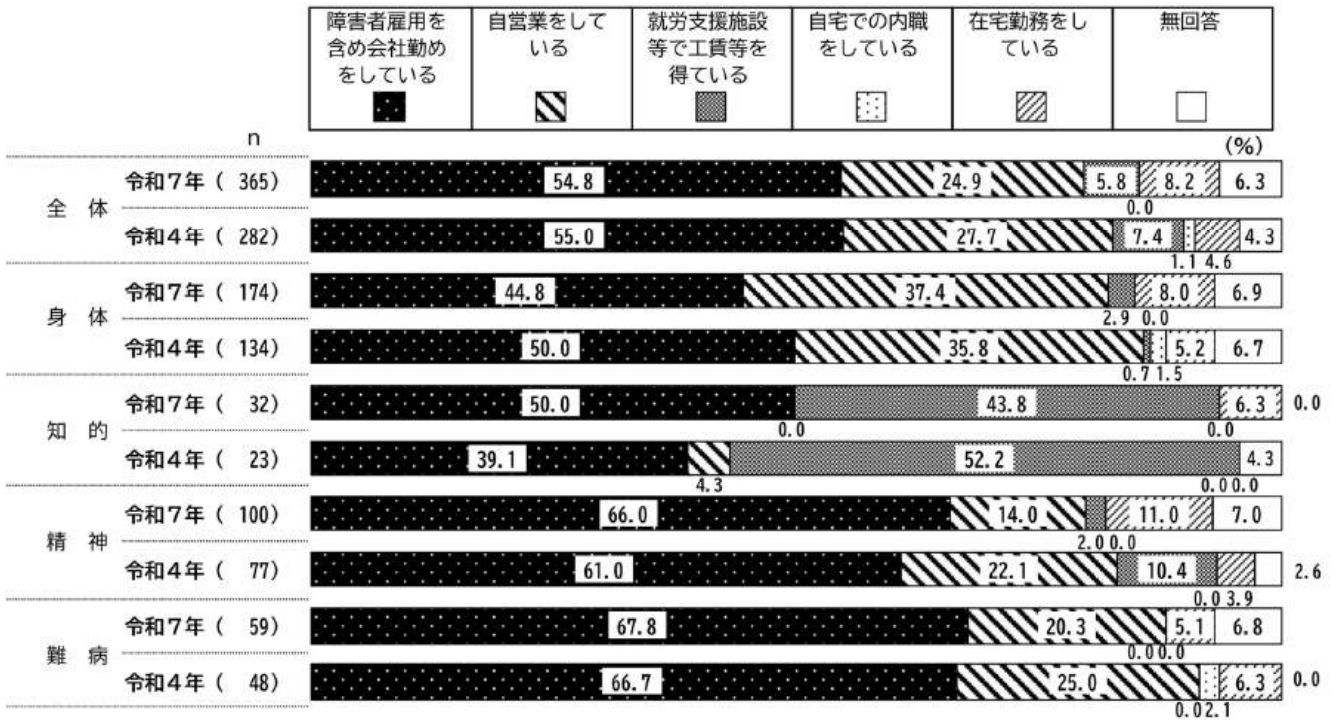


【経年比較】

令和4年調査と比較すると、傾向に大きな変化は見られない。「在宅勤務をしている」が3.6ポイント増加している一方、「自営業をしている」が2.8ポイント減少している。

調査票種別でみると、「障害者雇用を含め会社勤めをしている」が身体以外で増加しており、知的では10.9ポイント増加している。また「就労支援施設等で工賃等を得ている」が、知的と精神でそれぞれ8.4ポイント減少している。

就労している場合の働き方（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



(3) 一般就労の希望の有無

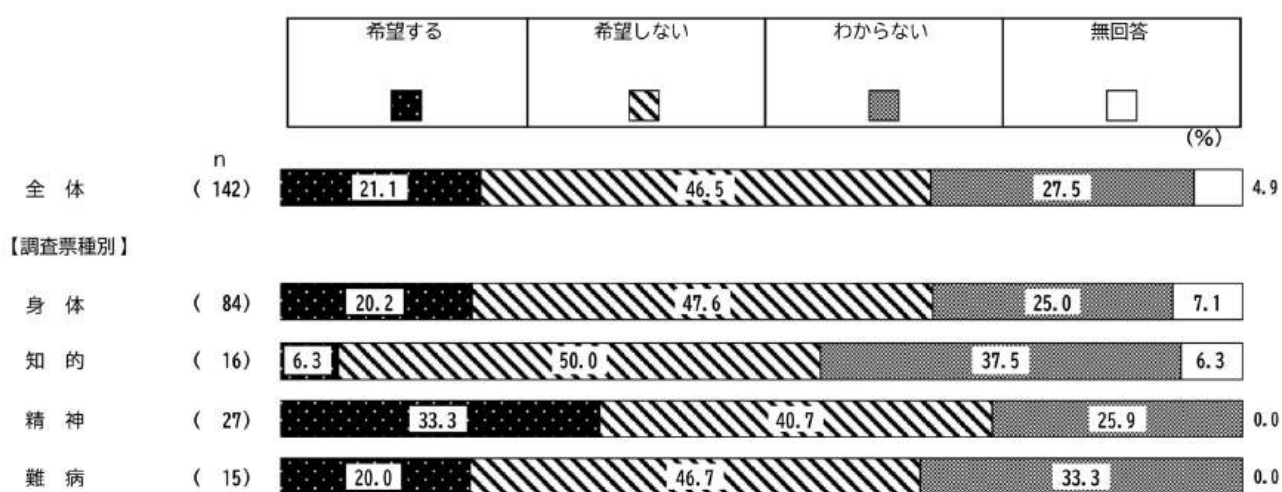
(身体、知的、精神、難病調査では働き方について、「自営業をしている」「就労支援施設等で工賃等を得ている」「自宅での内職をしている」「在宅勤務をしている」と答えた方、障害児調査では全員にお聞きします。)

(3) 将来、障害者雇用を含め会社勤め等、一般就労を希望しますか。(1つだけに○)

一般就労の希望の有無について、全体でみると、「希望する」が21.1%、「希望しない」は46.5%となっている。

調査票種別でみると、精神では「希望する」が33.3%、知的では「希望しない」が50.0%となっており、それぞれ全体と比べて割合が高くなっている。

一般就労の希望の有無 <全体(身体、知的、精神、難病)>



障害児の一般就労の希望の有無をみると、「希望する」が80.4%、「希望しない」は3.9%となっている。

一般就労の希望の有無 <障害児>



【経年比較】

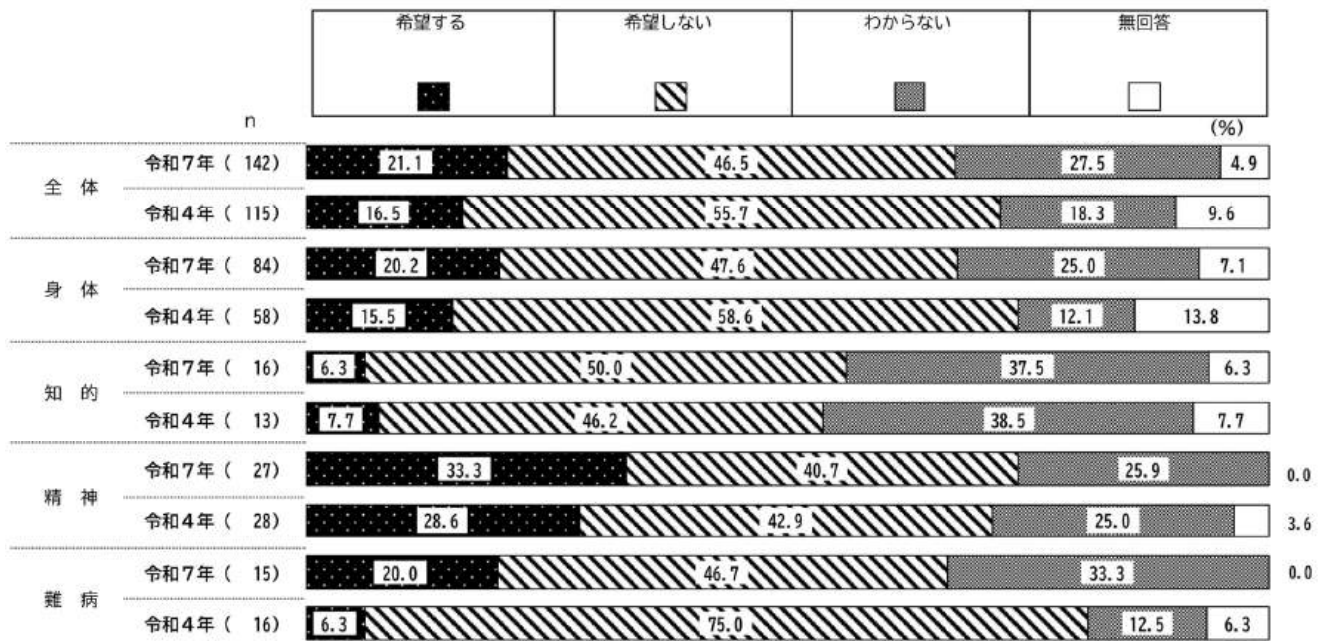
令和4年調査と比較すると、全体では大きな傾向の違いはみられないが、「わからない」が9.2ポイント増加し、「希望しない」が9.2ポイント減少している。

調査票種別でみると、難病で「希望する」が13.7ポイント増加し、「希望しない」が28.3ポイント減少している。

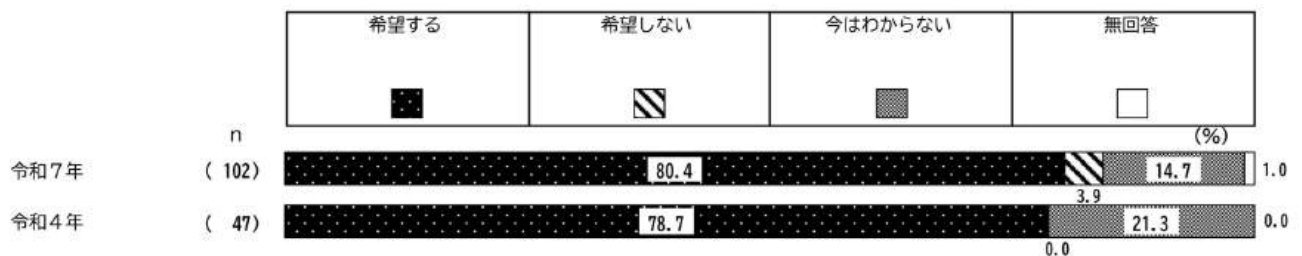
障害児では、「希望する」が8割を超えている一方、令和4年は0%であった「希望しない」が3.9ポイント増加している。

知的で「希望しない」の割合が増加しているものの、他種別では令和4年より一般就労を希望する声が高まっており、一般就労を希望する方向けのサポート体制の強化が求められる。

一般就労の希望の有無（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



一般就労の希望の有無（経年比較）＜障害児＞

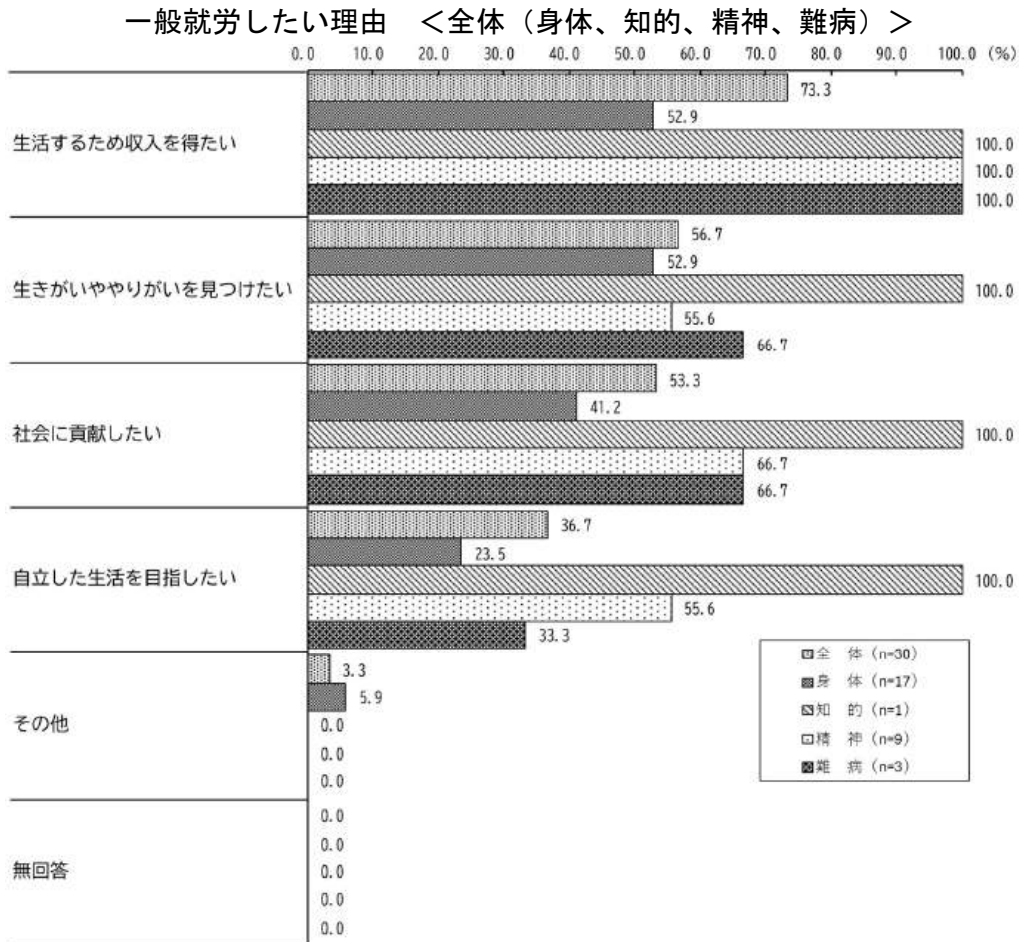


(4) 一般就労したい理由

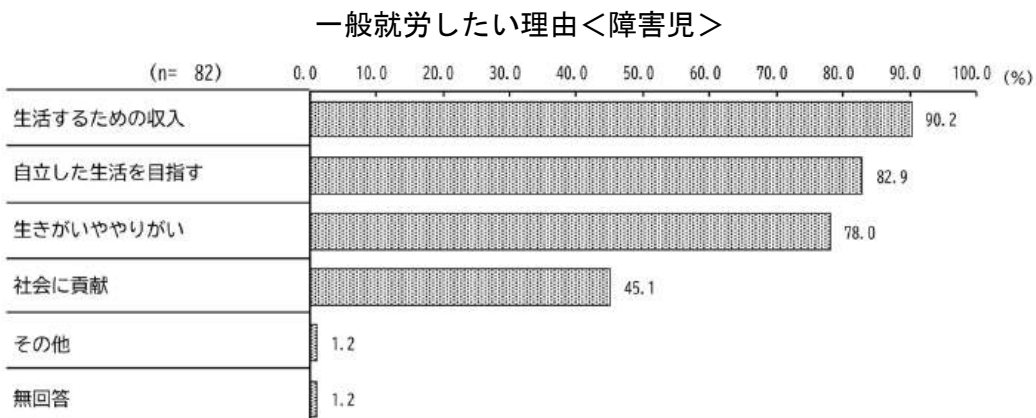
(一般就労の希望の有無について、「希望する」と答えた方にお聞きします。)

(4) 一般就労したい理由は何ですか。(〇はいくつでも)

一般就労したい理由について、全体でみると、「生活するため収入を得たい」が73.3%で最も高く、次いで「生きがいややりがいを見つけない」が56.7%、「社会に貢献したい」が53.3%、「自立した生活を目指したい」が36.7%などとなっている。



障害児の一般就労したい理由をみると、「生活するための収入」が90.2%で最も高く、次いで「自立した生活を目指す」が82.9%、「生きがいややりがい」が78.0%などとなっている。



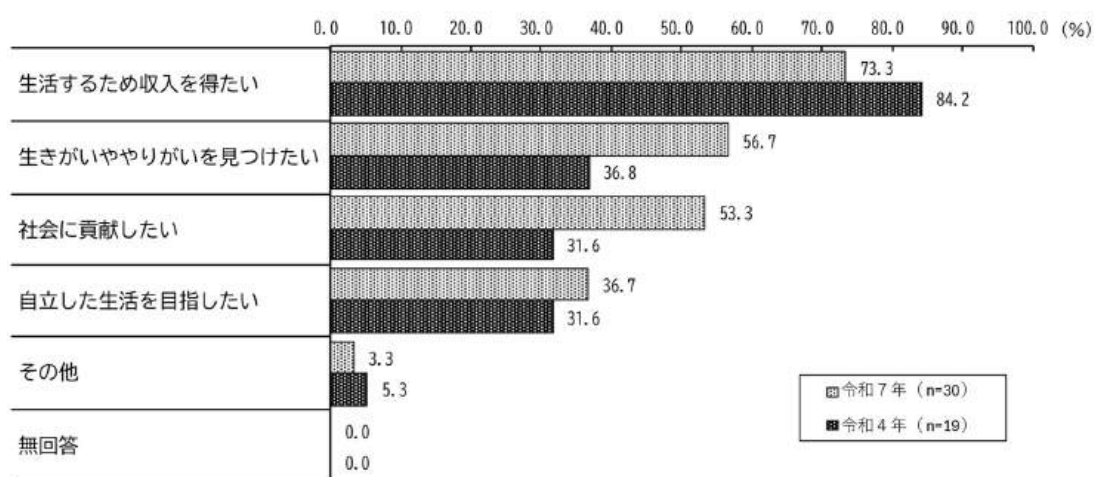
【経年比較】

令和4年調査と比較すると、全体では、「社会に貢献したい」が21.7ポイント、「生きがいややりがいを見つけない」が19.9ポイントそれぞれ増加しており、「生活するため収入を得たい」が10.9ポイント減少している。

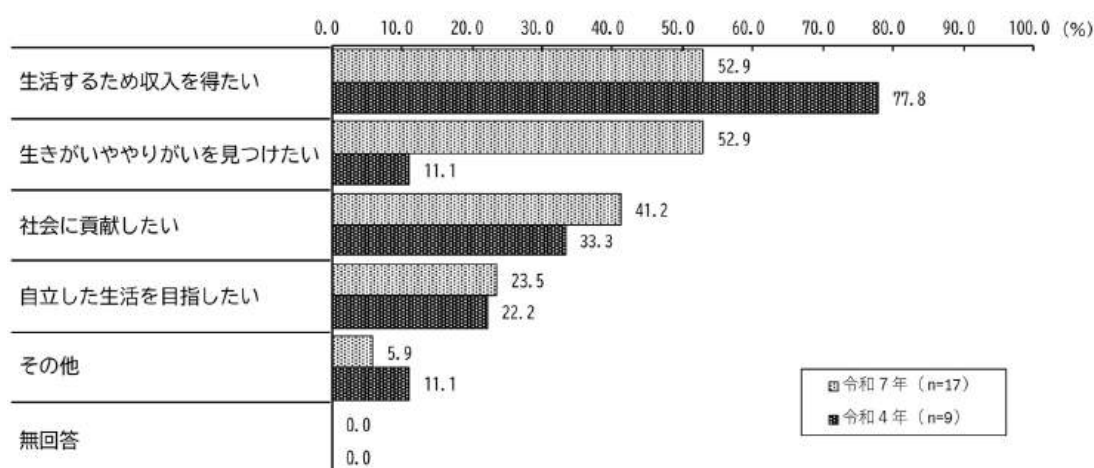
調査票種別は基数が少ないため、参考に掲載する。

障害児では、「社会に貢献」が7.3ポイント増加している一方、「自立した生活を目指す」が6.3ポイント減少している。

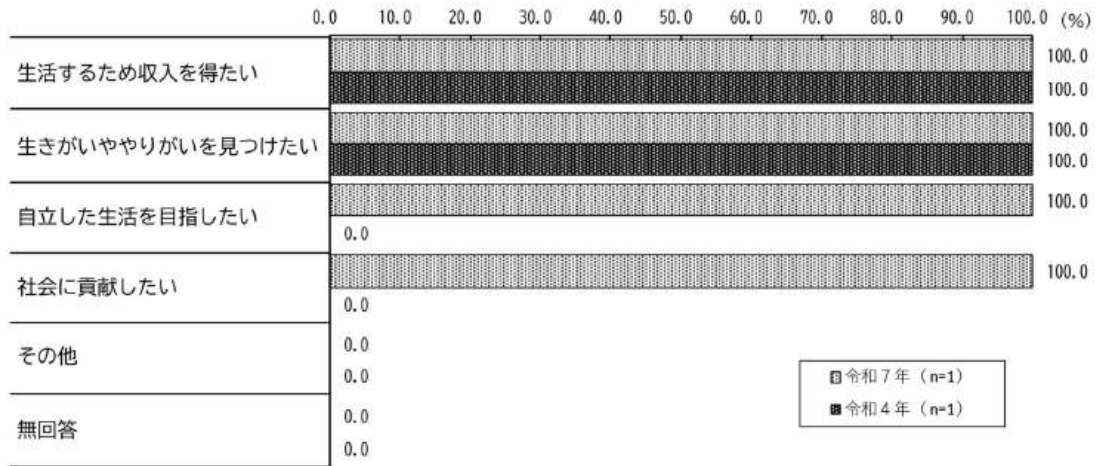
一般就労したい理由（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



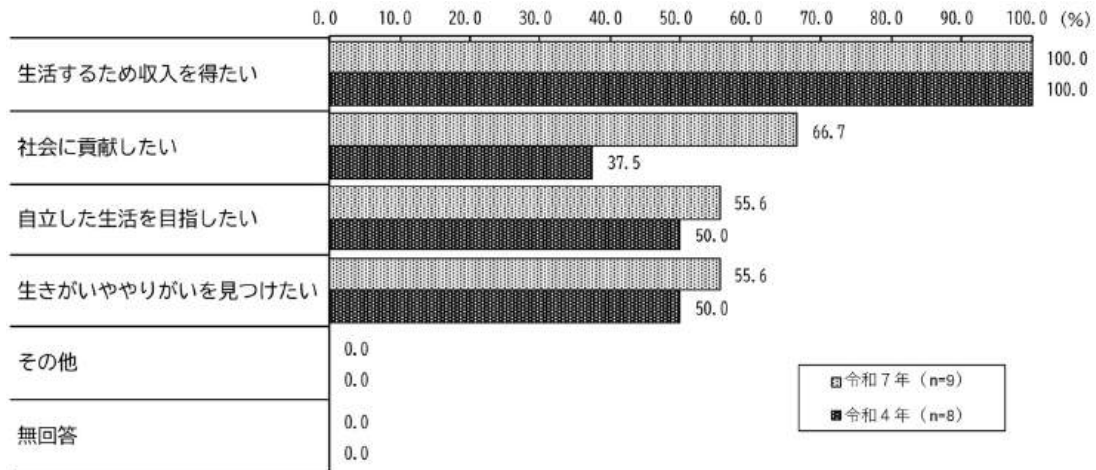
一般就労したい理由（経年比較）＜身体＞



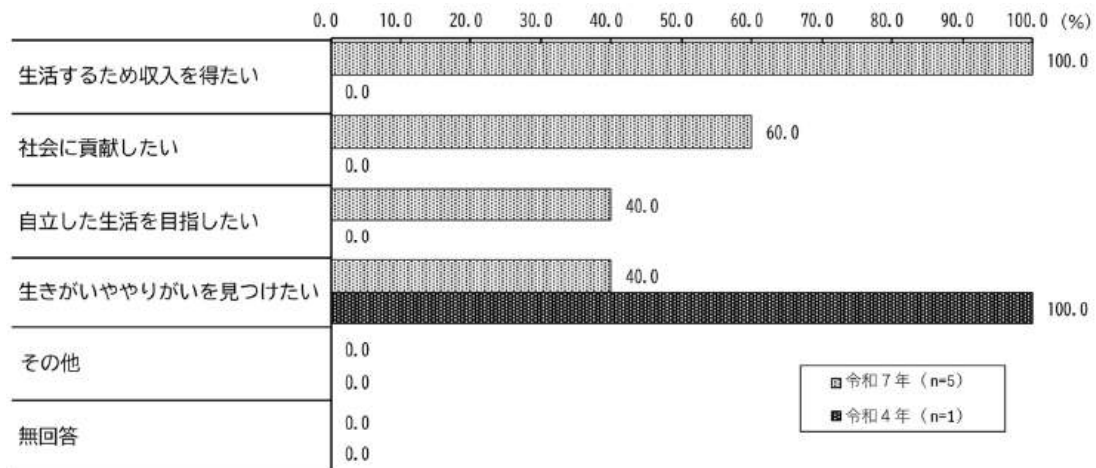
一般就労したい理由（経年比較）＜知的＞



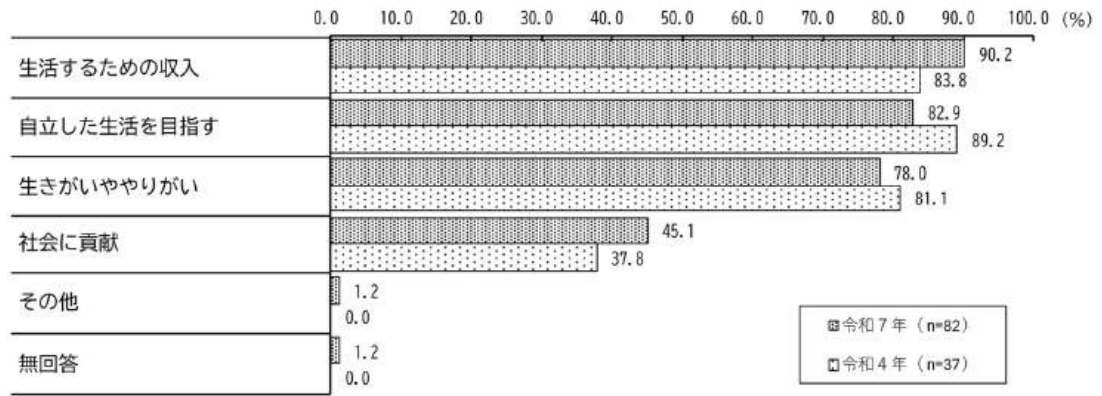
一般就労したい理由（経年比較）＜精神＞



一般就労したい理由（経年比較）＜難病＞



一般就労したい理由（経年比較）＜障害児＞



(5) 仕事をするうえで困っていること

<身体、知的、精神、難病調査の質問>

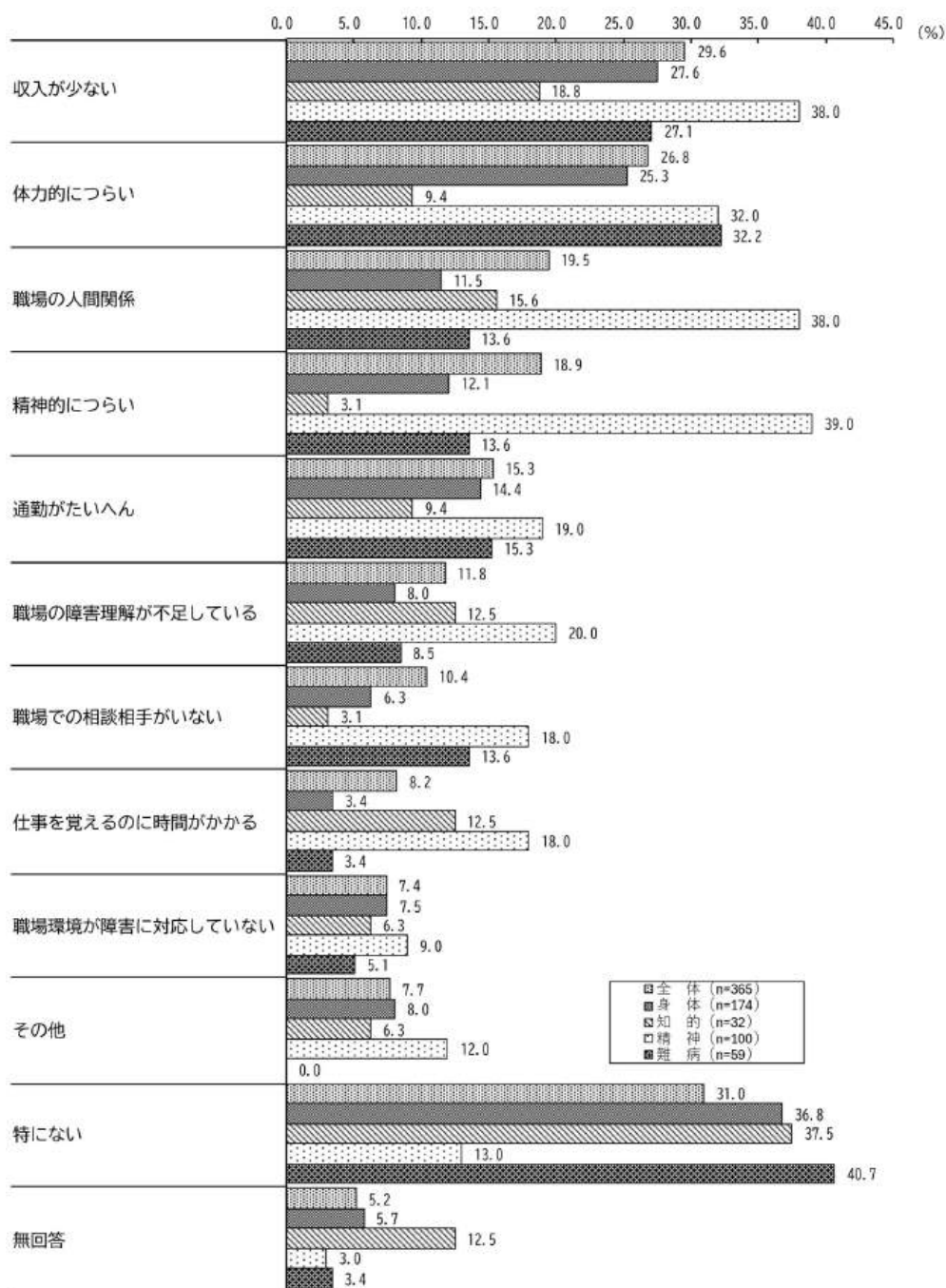
(就労の状況について、「就労している」と答えた方にお聞きします。)

問 仕事をするうえで困っていることはありませんか。(〇はいくつでも)

仕事をするうえで困っていることについて、全体でみると、「収入が少ない」が29.6%で最も高く、次いで「体力的につらい」が26.8%、「職場の人間関係」が19.5%などとなっている。

調査票種別でみると、身体と知的では「収入が少ない」、精神では「精神的につらい」、難病では「体力的につらい」の割合が最も高くなっている。

仕事をするうえで困っていること <全体（身体、知的、精神、難病）>



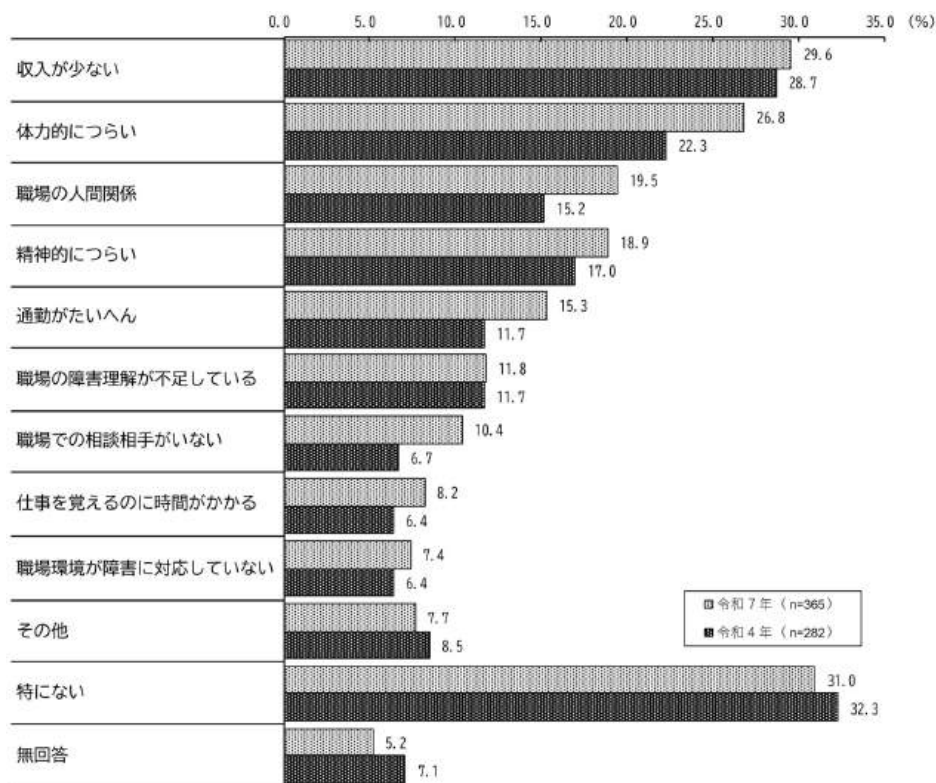
【経年比較】

令和4年調査と比較すると、全体では、「体力的につらい」が4.5ポイント、「職場の人間関係」が4.3ポイント増加している。

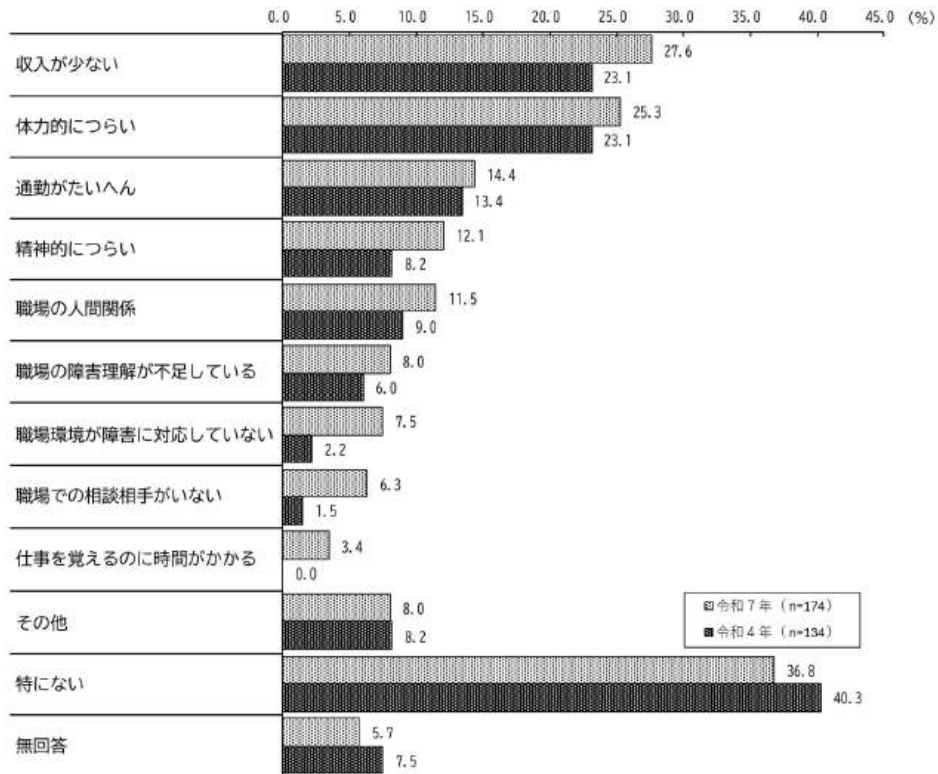
調査票種別でみると、「職場での相談相手がない」が難病で13.6ポイント、「通勤がたいへん」が精神で11.2ポイントそれぞれ増加し、「収入が少ない」が知的で16.0ポイント、「職場環境が障害に対応していない」が精神で7.9ポイントそれぞれ減少している。

令和4年と比較してすべての項目で増加傾向にあることから、仕事に対する不安が年々増大していることがうかがえる。丁寧な聞き取りや親身な支援体制の確立により、不安要素を最小限に抑え、心身の安定および継続的な就労のサポートを行っていくことが必要である。

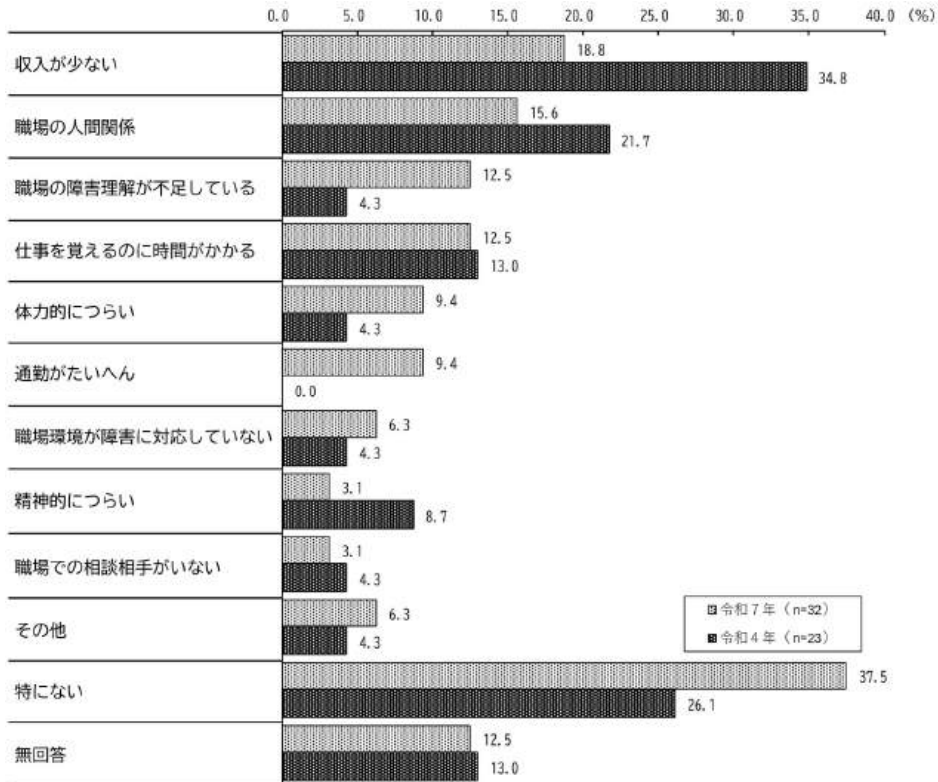
仕事をするうえで困っていること（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



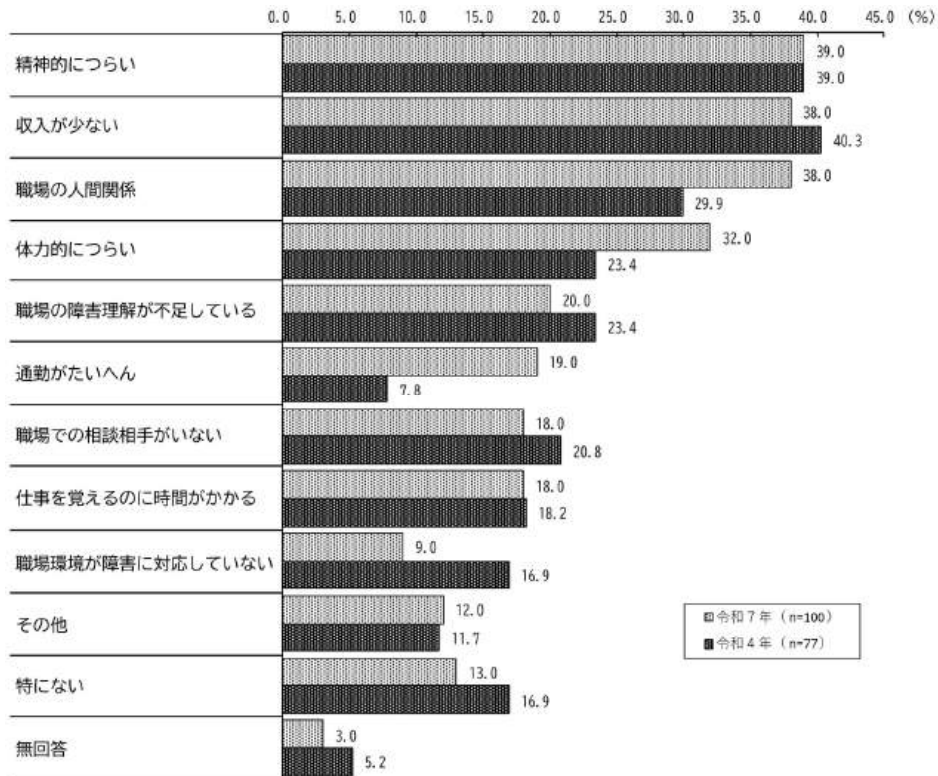
仕事をするうえで困っていること（経年比較）＜身体＞



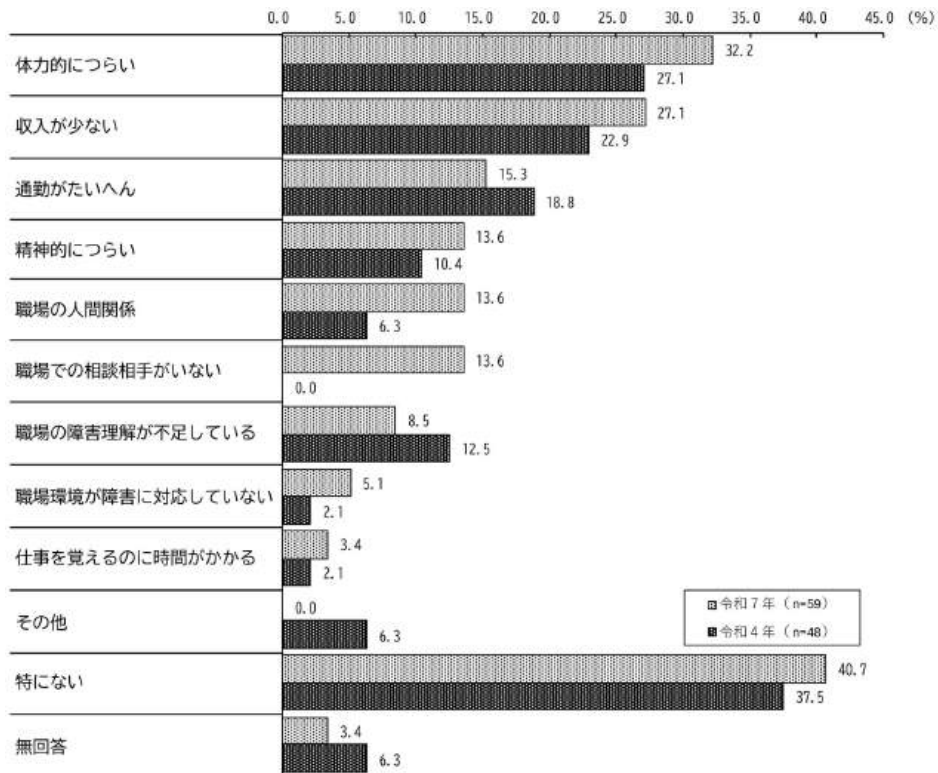
仕事をするうえで困っていること（経年比較）＜知的＞



仕事をするうえで困っていること（経年比較）＜精神＞



仕事をするうえで困っていること（経年比較）＜難病＞



(6) 必要な就労支援

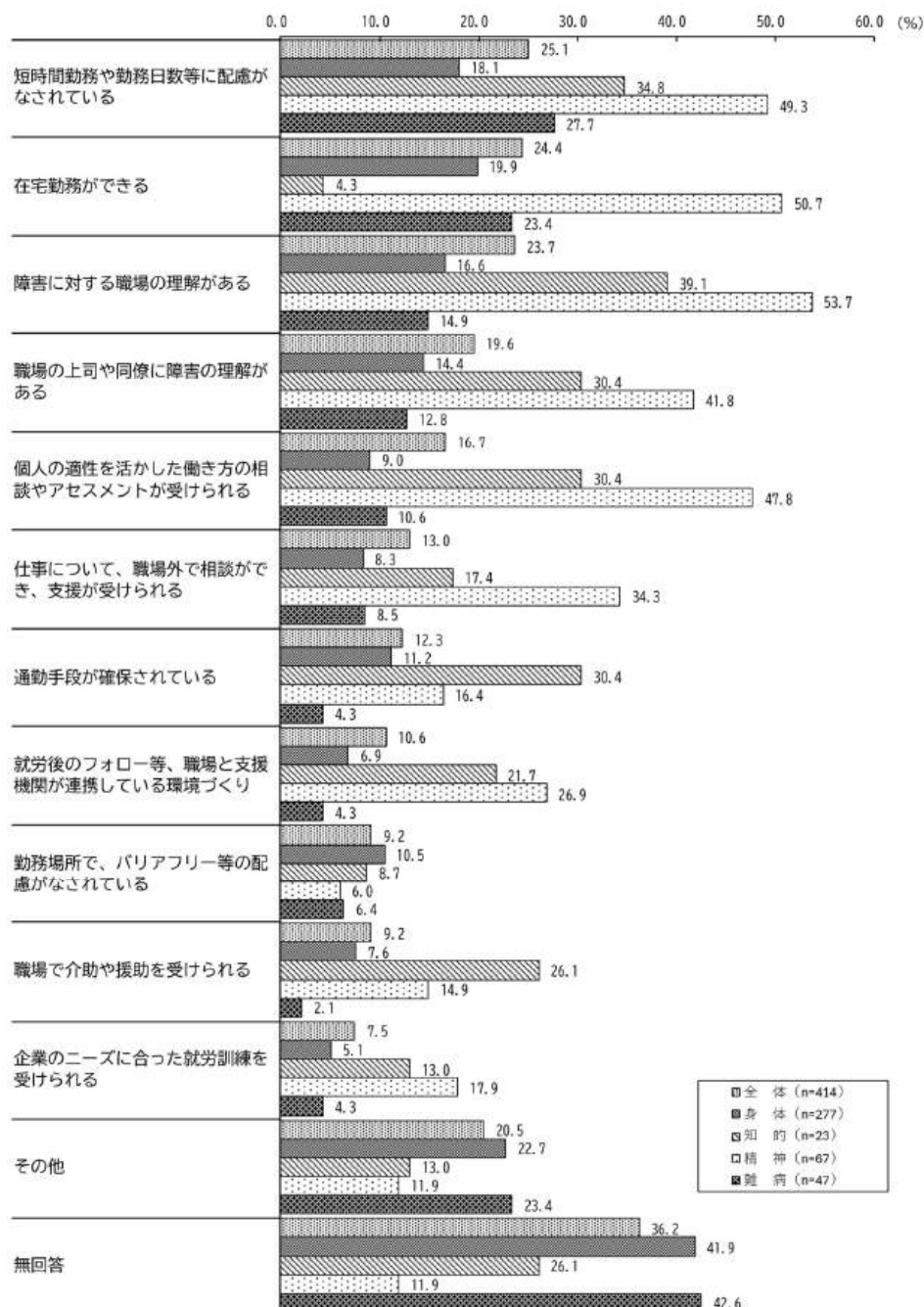
(身体、知的、精神、難病調査では就労の状況について、「就労していない」と答えた方、障害児調査では一般就労の希望の有無について、「希望する」と答えた方にお聞きします。)

問 あなたは、今後どのような就労支援が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

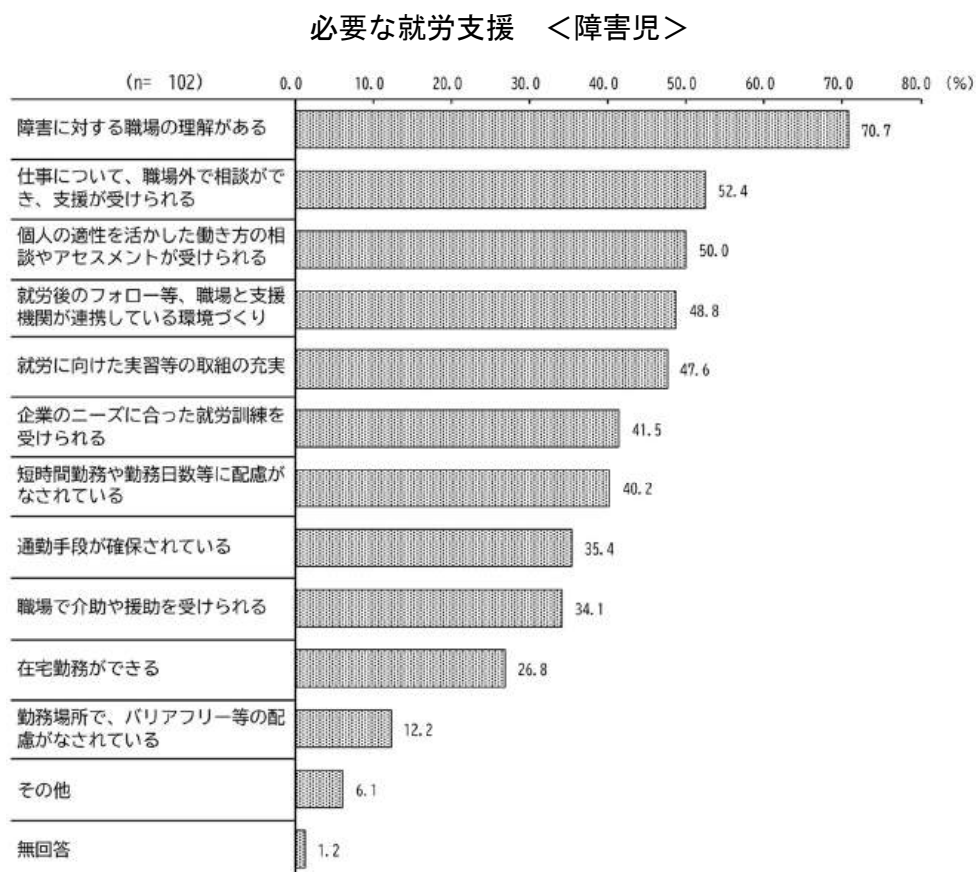
必要な就労支援について、全体でみると、「短時間勤務や勤務日数等に配慮がなされている」が25.1%で最も高く、次いで「在宅勤務ができる」が24.4%、「障害に対する職場の理解がある」が23.7%などとなっている。

調査票種別でみると、身体では「在宅勤務ができる」、知的、精神では「障害に対する職場の理解がある」、難病では「短時間勤務や勤務日数等に配慮がなされている」の割合が最も高くなっている。

必要な就労支援 <全体（身体、知的、精神、難病）>



障害児の必要な就労支援をみると、「障害に対する職場の理解がある」が70.7%で最も高く、次いで「仕事について、職場外で相談ができ、支援が受けられる」が52.4%、「個人の適性を活かした働き方の相談やアセスメントが受けられる」が50.0%などとなっている。



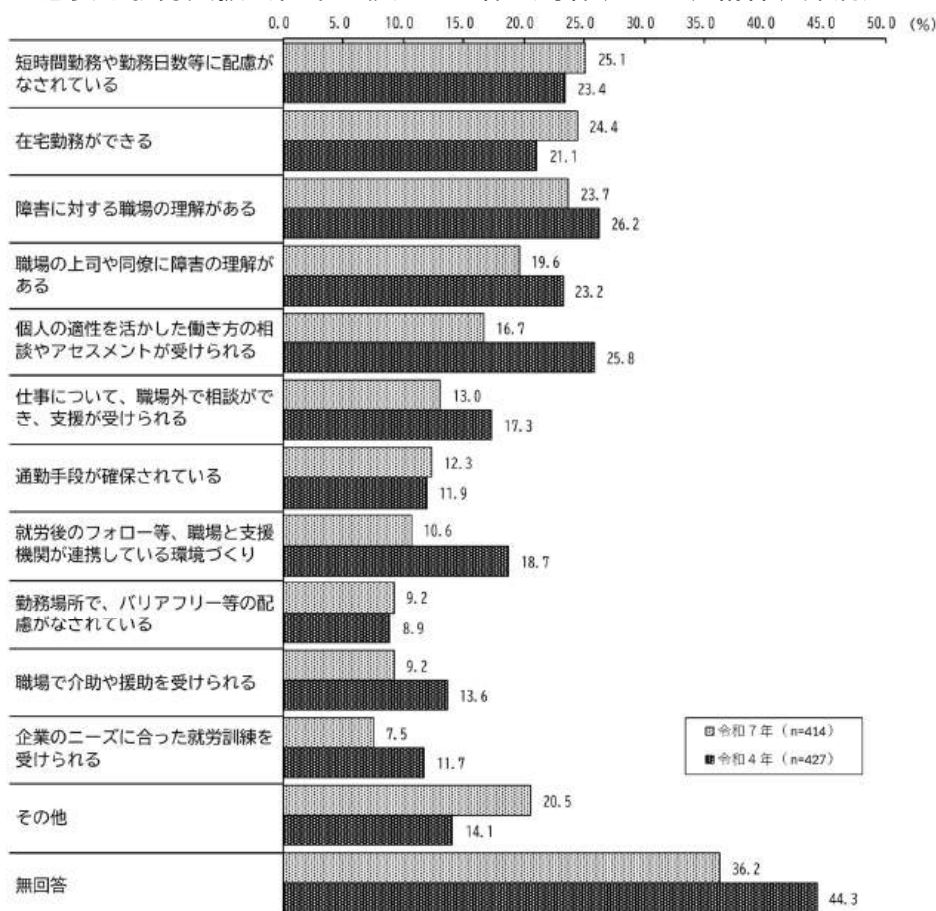
【経年比較】

令和4年調査と比較すると、全体では、「在宅勤務ができる」が3.3ポイント増加している一方、「個人の適性を活かした働き方の相談やアセスメントが受けられる」が9.1ポイント、「就労後のフォロー等、職場と支援機関が連携している環境づくり」が8.1ポイントそれぞれ減少している。

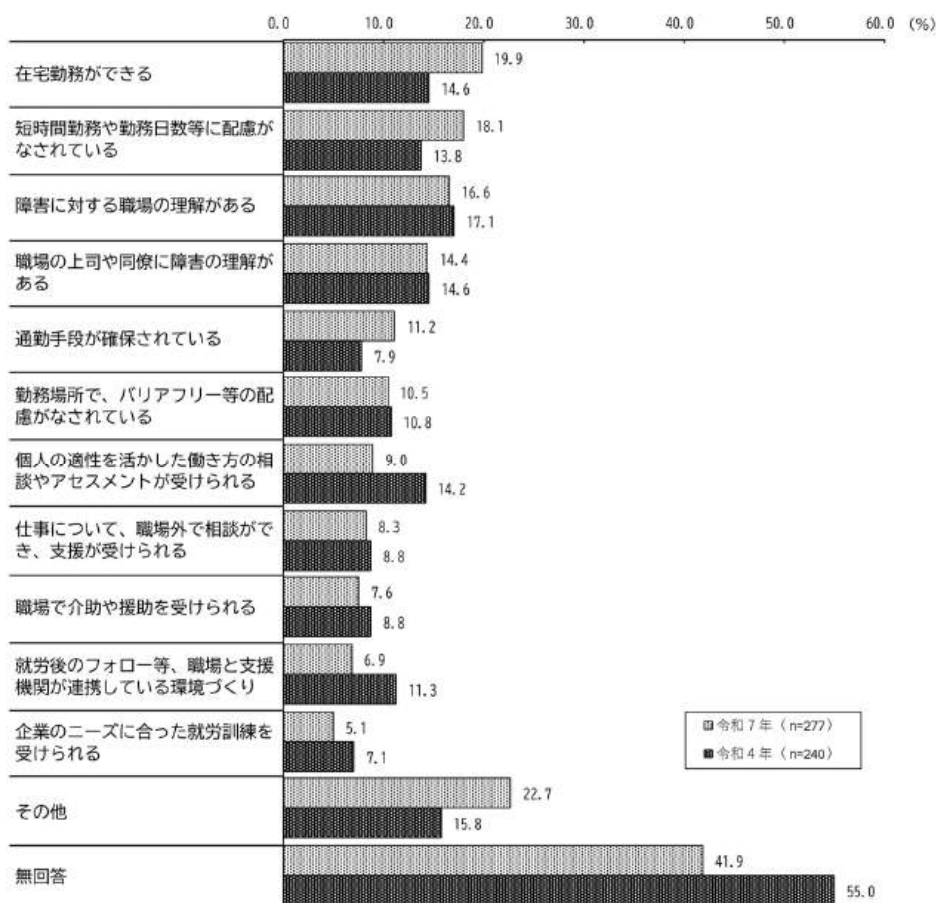
調査票種別でみると、精神では、「企業のニーズに合った就労訓練を受けられる」が25.9ポイント増加し、「個人の適性を活かした働き方の相談やアセスメントが受けられる」が25.9ポイント減少している。知的では「個人の適性を活かした働き方の相談やアセスメントが受けられる」が32.8ポイント、「就労後のフォロー等、職場と支援機関が連携している環境づくり」が30.9ポイントそれぞれ減少している。

全体では「短時間勤務や勤務日数等に配慮がなされている」と「在宅勤務ができる」が特に増加傾向にあることから、今後、物理的な環境に対する配慮がより重要になると考えられる。また障害児では「障害に対する職場の理解がある」が最も望まれていることから、職場の方への説明の工夫や障害に対する理解を深める活動を、企業と社会が共に推進していくことが求められる。

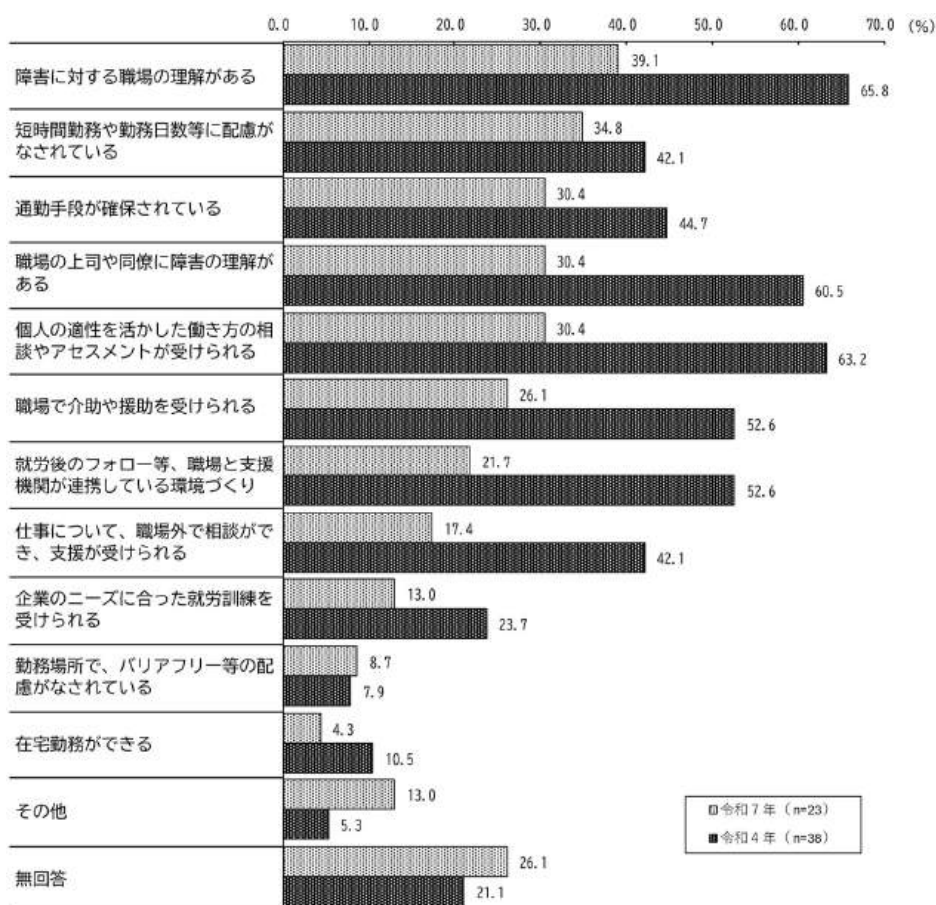
必要な就労支援（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



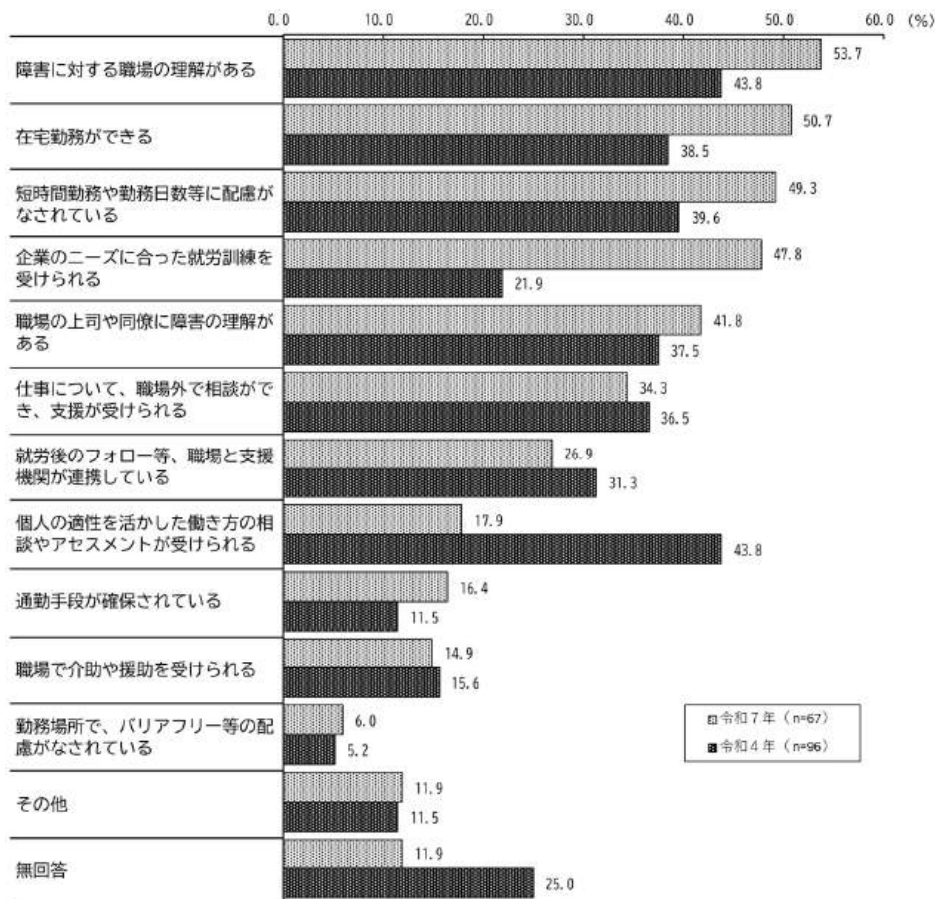
必要な就労支援（経年比較）＜身体＞



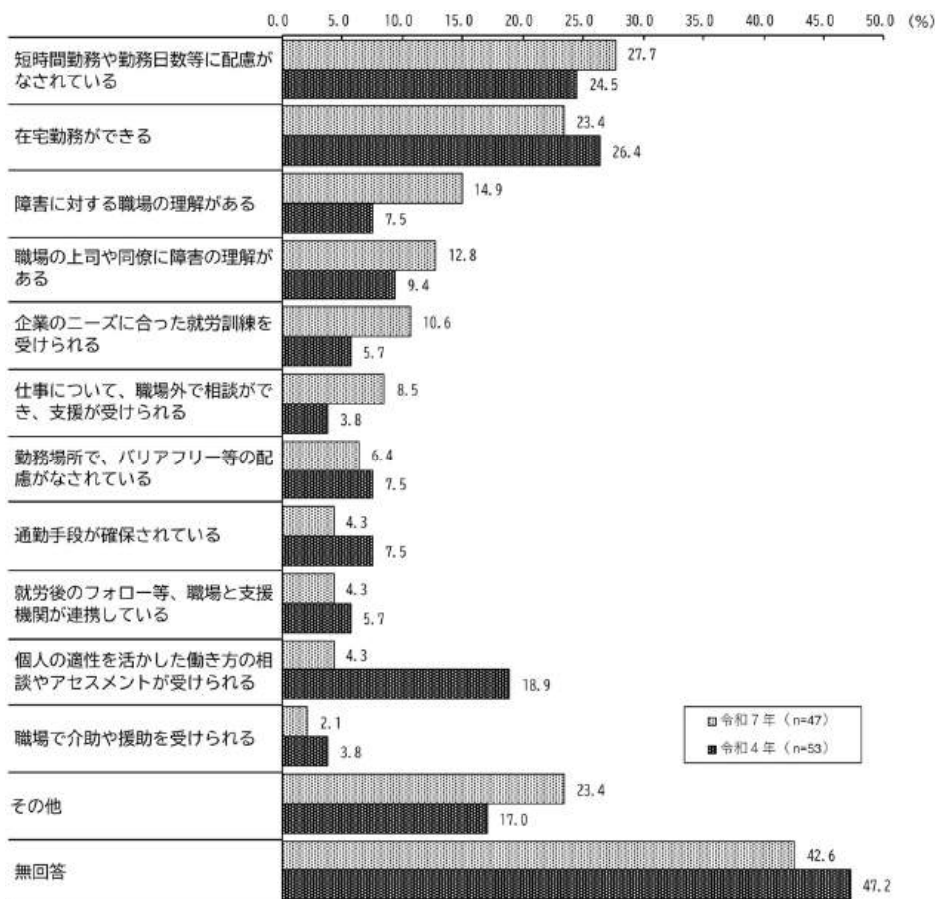
必要な就労支援（経年比較）＜知的＞



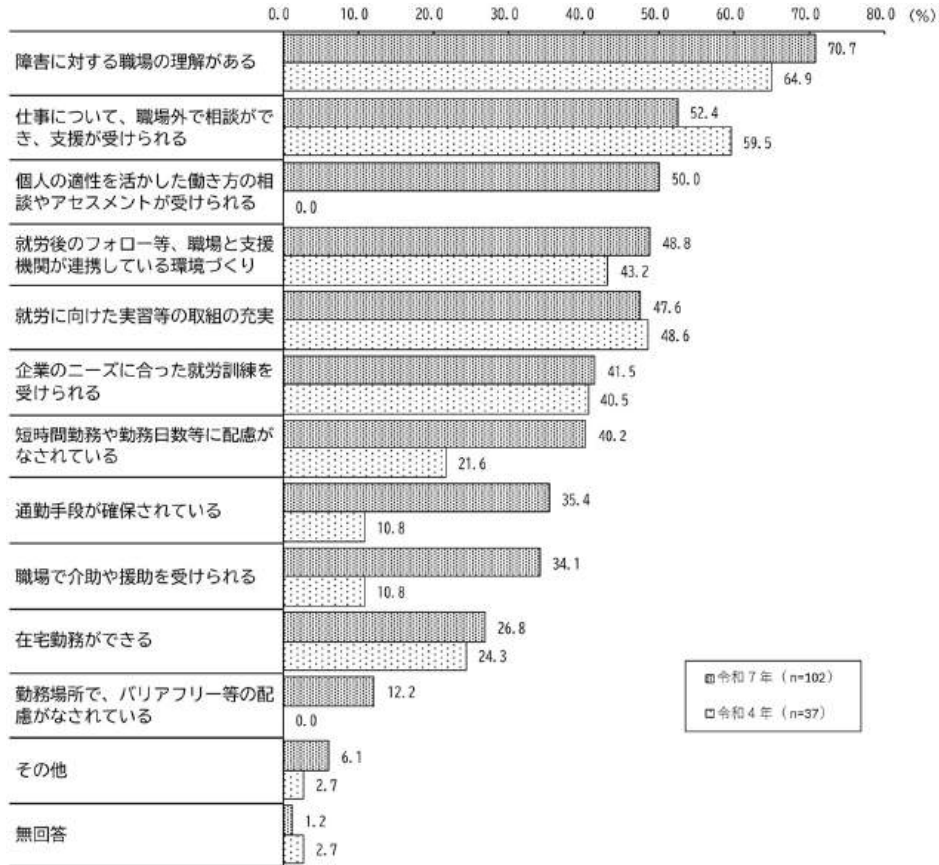
必要な就労支援（経年比較）＜精神＞



必要な就労支援（経年比較）＜難病＞



必要な就労支援（経年比較）＜障害児＞



7 障害福祉サービス等の利用について

(1) 障害支援区分の有無

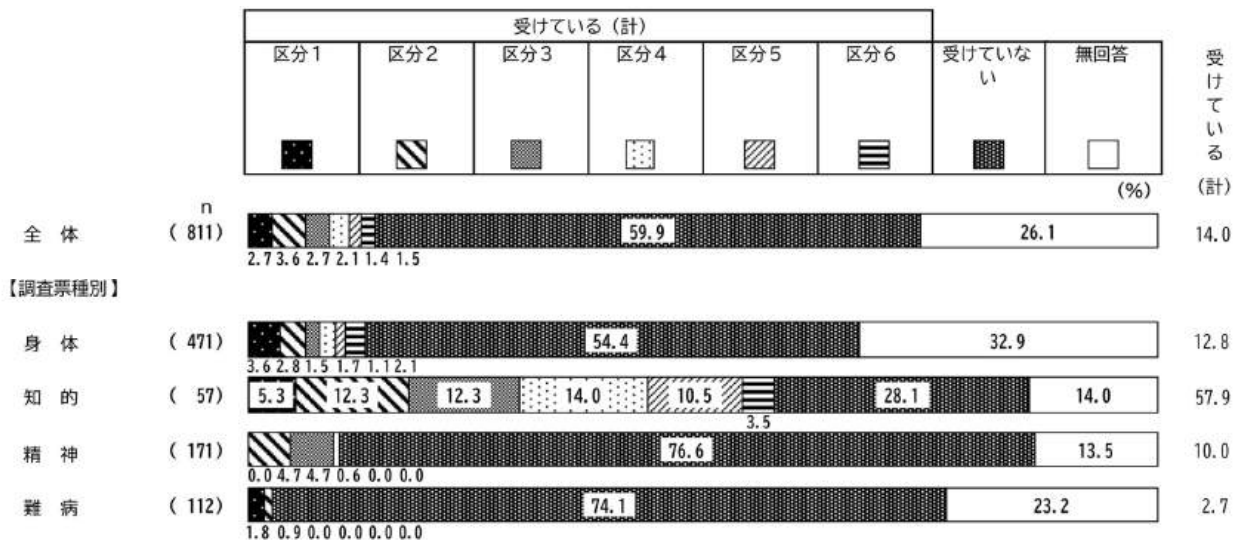
＜身体、知的、精神、難病調査の質問＞

問 あなたの障害支援区分は次のうちどれですか。（1つだけに○）

障害支援区分の有無について、全体で見ると、「区分1」から「区分6」までを合わせた『障害支援区分の認定を受けている（計）』は14.0%となっている一方、「受けていない」は59.9%となっている。

調査票種別で見ると、知的では『障害支援区分の認定を受けている（計）』は57.9%となっており、全体と比べて割合が高くなっている。

障害支援区分の有無 ＜全体（身体、知的、精神、難病）＞

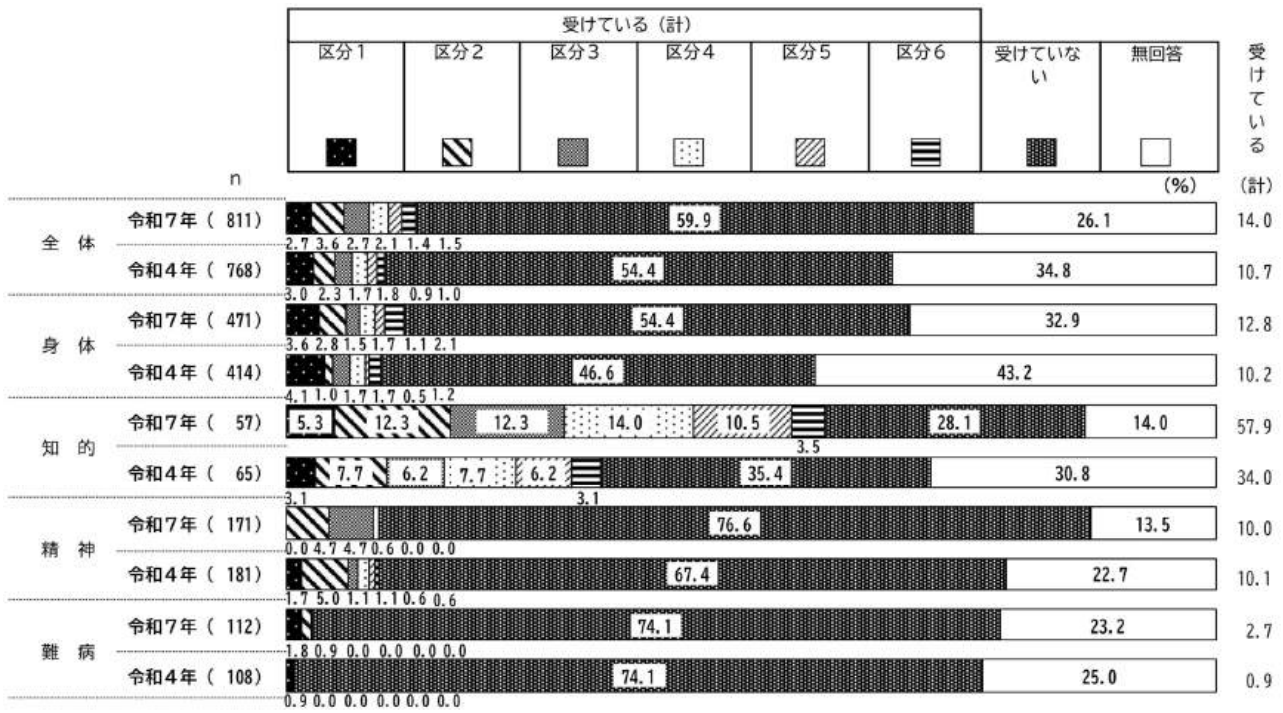


【経年比較】

令和4年調査と比較すると、全体では、『障害支援区分の認定を受けている（計）』が3.3ポイント増加している。

調査票種別で見ると、知的では『障害支援区分の認定を受けている（計）』が23.9ポイント増加し、半数以上が認定を受けている。

障害支援区分の有無（経年比較）＜全体（身体、知的、精神、難病）＞



(2) 要介護認定

<身体、知的、精神、難病調査の質問>

問 要介護認定や介護保険によるサービスについてお聞きします。

(1) あなたの要支援・要介護度は次のうちどれですか。(1つだけに○)

要介護認定について、全体でみると、「要支援1」と「要支援2」を合わせた『要支援認定を受けている(計)』は13.9%、「要介護1」から「要介護5」を合わせた『要介護認定を受けている(計)』は30.2%となっている。一方、「受けていない」は46.9%となっている。

調査票種別でみると、知的では『要介護認定を受けている(計)』が37.5%となっており、全体と比べて割合が高くなっている。

要介護認定 <全体(身体、知的、精神、難病)>

